

定留遺跡
赤松地区

定留遺跡赤松地区 発掘調査報告書

大分県中津市大字定留における圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告
第89集

2018
中津市教育委員会

2018
中津市教育委員会

定留遺跡赤松地区 発掘調査報告書

大分県中津市大字定留における圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝那馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。また、近年は自動車関連会社などの進出・稼働により工業の町としての新たな側面も見せ始めています。

一方、経済活動の発展・促進に付随した開発事業は、埋蔵文化財へ影響を与えることがあります。平成29年度はこうした開発事業にともなう試掘・確認調査が、東九州道などへのアクセス道路整備、インター周辺の開発及び市街地周辺の宅地化などにより、前年度に引き続き増加傾向にあります。埋蔵文化財を取り巻く環境は厳しいところではありますが、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかなくてはなりません。

本書は中津市大字定留において実施された県営農村活性化住環境整備事業に伴い、平成11年度に調査された定留遺跡赤松地区の発掘調査報告書です。この調査により臨海地に立地する古代から中世にかけての集落が確認され、国産の高級陶器とともに漁労に関わる蛸壺などが出土し、当時の交易や生産活動の一例が判明し、当地域の歴史を考えるうえで貴重な資料となりました。

本書が歴史教育や学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力を賜りました大分県中津下毛地方振興局をはじめ関係各位、及び調査に従事して下さった方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

平成30年3月15日

中津市教育委員会
教育長 廣畑 功

例 言

- 1 本書は、「県営農村活性化住環境整備事業」の赤松地区圃場整備事業に伴い、大分県中津市大字定留995番地他で平成11年度に実施した、定留遺跡赤松地区の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は、平成11年4月1日に大分県中津下毛地方振興局と中津市が埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、同日から中津市教育委員会が実施した。
- 3 本書に掲載した遺構の略称は、竪穴住居跡を「住」、掘立柱建物跡を「建」柱穴列を「列」、中世墓を「墓」、井戸を「井」、土坑を「土」、溝状遺構を「溝」と表記した。
- 4 遺構の実測図作成及び写真撮影は、主として調査担当者の高崎章子・花崎徹が行った。
- 5 出土遺物の実測・トレース・写真撮影は穴井美保子・猪立山順子・岩本敏美・橋内順子・末永弥義が行った。
- 6 本書に掲載した定留遺跡周辺主要遺跡等分布図は、国土地理院発行の1/50,000「中津」・「宇佐」を改変したものである。
- 7 今回の調査で出土した遺物及び検出した遺構の図面・写真等の記録は、中津市歴史民俗資料館に保管している。
- 8 本書の執筆・編集は末永が行った。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
第1節 調査の経過	1
第2節 調査の組織	1
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の内容	6
1 竪穴住居跡	6
2 掘立柱建物跡	8
3 柱穴列	27
4 中世墓	28
5 井戸	29
6 土坑	30
7 溝状遺構	47
8 土塁	51
9 その他の遺構	51
第4章 調査のまとめ	64

挿 図 目 次

第1図	定留遺跡周辺主要遺跡等分布図 (縮尺1/50,000)	4
第2図	定留遺跡赤松地区調査位置図 (縮尺1/5,000)	5
第3図	竪穴住居跡実測図 (縮尺1/80)	7
第4図	竪穴住居跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)	8
第5図	掘立柱建物跡実測図1 (縮尺1/120)	9
第6図	掘立柱建物跡実測図2 (縮尺1/120)	12
第7図	掘立柱建物跡実測図3 (縮尺1/120)	14
第8図	掘立柱建物跡実測図4 (縮尺1/120)	16
第9図	掘立柱建物跡実測図5 (縮尺1/120)	18
第10図	掘立柱建物跡実測図6 (縮尺1/120)	20
第11図	掘立柱建物跡実測図7 (縮尺1/120)	23
第12図	掘立柱建物跡実測図8 (縮尺1/120)	25
第13図	掘立柱建物跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)	26
第14図	柱穴列実測図 (縮尺1/120)	27
第15図	柱穴列出土遺物実測図 (縮尺1/3)	28
第16図	中世墓及び中世墓出土遺物実測図 (縮尺1/20・1/3・1/2)	29
第17図	井戸出土遺物実測図 (縮尺1/3)	29
第18図	井戸実測図 (縮尺1/40)	30
第19図	土坑実測図1 (縮尺1/60)	35
第20図	土坑実測図2 (縮尺1/60)	36
第21図	土坑実測図3 (縮尺1/60)	37
第22図	土坑実測図4 (縮尺1/60)	38
第23図	土坑実測図5 (縮尺1/60)	39
第24図	土坑実測図6 (縮尺1/60)	40
第25図	土坑実測図7 (縮尺1/60)	41
第26図	土坑実測図8 (縮尺1/60)	42
第27図	土坑実測図9 (縮尺1/60)	43
第28図	土坑出土遺物実測図1 (縮尺1/3)	44
第29図	土坑出土遺物実測図2 (縮尺1/3)	45
第30図	土坑出土遺物実測図3 (縮尺1/3)	46
第31図	土坑出土遺物実測図4 (縮尺1/3)	47
第32図	溝状遺構実測図 (縮尺1/100)	48
第33図	溝状遺構出土遺物実測図1 (縮尺1/3)	49
第34図	溝状遺構出土遺物実測図2 (縮尺1/3)	50
第35図	土塁土層断面実測図 (縮尺1/50)	51
第36図	不明遺構出土遺物実測図1 (縮尺1/3)	51
第37図	不明遺構出土遺物実測図2 (縮尺1/3)	52
第38図	ビット等出土遺物実測図1 (縮尺1/3)	53
第39図	ビット等出土遺物実測図2 (縮尺1/3)	54
付図	定留遺跡赤松地区全体図 (縮尺1/400)	

表 目 次

第1表	土坑一覧表	31
第2表	溝状遺構一覧表	49
第3表	出土土器観察表	55
第4表	出土土製品他観察表	63

図 版 目 次

図版 1	(1)定留遺跡赤松地区調査区遠景(南東から) (2)定留遺跡赤松地区調査区遠景(北西から)
図版 2	(1)北区全景(西から) (2)北区南半(西から) (3)北区北半(西から)
図版 3	(1)1号・2号竪穴住居跡(北東から) (2)1号竪穴住居跡(北西から) (3)1号～7号掘立柱建物跡付近(南東から) (4)1号～3号掘立柱建物跡(南西から)
図版 4	(1)6号・7号・9号・10号・14号・20号・31号・37号掘立柱建物跡付近(南東から) (2)6号・7号・9号掘立柱建物跡(南東から) (3)11号～17号・20号・30号・39号・40号掘立柱建物跡付近(南西から)
図版 5	(1)11号・12号掘立柱建物跡、55号・71号土坑(南西から) (2)13号・17号・18号掘立柱建物跡(南東から) (3)14号～20号掘立柱建物跡付近(南東から)
図版 6	(1)19号・21号・43号掘立柱建物跡(北東から) (2)22号・23号・44号掘立柱建物跡、36号土坑(南西から) (3)25号掘立柱建物跡・1号柱穴列(北東から)
図版 7	(1)26号・27号掘立柱建物跡、49号・58号・61号土坑(南西から) (2)28号・29号掘立柱建物跡、45号土坑(北東から) (3)7号溝状遺構(北西から)
図版 8	(1)中世墓(南から) (2)中世墓土器出土状況1 (3)中世墓土器出土状況2 (4)中世墓銅鏡出土状況 (5)中世墓銅鏡容器出土状況6
図版 9	(1)1号井戸(北から) (2)2号井戸(北東から) (3)7号溝状遺構(北東から) (4)7号溝状遺構蛸壺出土状況(北東から) (5)H7グリッド-P1(西から)
図版10	(1)南区全景(南から) (2)南区南部(北西から) (3)南区中央部(南西から) (4)土塁土層断面1(北西から) (5)土塁土層断面2(北から)
図版11	(1)竪穴住居跡出土遺物1 (2)竪穴住居跡出土遺物2 (3)掘立柱建物跡出土遺物1 (4)掘立柱建物跡出土遺物2 (5)掘立柱建物跡出土遺物3 (6)中世墓出土遺物1 (7)中世墓出土遺物2 (8)中世墓出土遺物3
図版12	(1)土坑出土遺物1 (2)土坑出土遺物2 (3)土坑出土遺物3 (4)土坑出土遺物4 (5)土坑出土遺物5 (6)土坑出土遺物6 (7)土坑出土遺物7 (8)土坑出土遺物8
図版13	(1)土坑出土遺物9 (2)土坑出土遺物10 (3)土坑出土遺物11 (4)土坑出土遺物12 (5)土坑出土遺物13 (6)土坑出土遺物14 (7)土坑出土遺物15 (8)土坑出土遺物16
図版14	(1)土坑出土遺物17 (2)土坑出土遺物18 (3)土坑出土遺物19 (4)土坑出土遺物20 (5)土坑出土遺物21 (6)土坑出土遺物22 (7)土坑出土遺物23 (8)溝状遺構出土遺物1
図版15	(1)溝状遺構出土遺物2 (2)溝状遺構出土遺物3 (3)溝状遺構出土遺物4 (4)不明遺構出土遺物1 (5)不明遺構出土遺物2 (6)不明遺構出土遺物3 (7)不明遺構出土遺物4 (8)ピット等出土遺物1
図版16	(1)ピット等出土遺物2 (2)ピット等出土遺物3 (3)ピット等出土遺物4 (4)ピット等出土遺物5 (5)ピット等出土遺物6 (6)ピット等出土遺物7 (7)ピット等出土遺物8 (8)ピット等出土遺物9

第1章 調査の経過と組織

第1節 調査の経過

定留遺跡は中津市東部の下毛原台地が、南西から北東方向へ周防護に向かつてのびる先端近くの臨海部に位置する、弥生時代から古墳時代の遺物を包含する周知の複合遺跡である。遺跡の所在地は中津市大字定留995番地他である。

定留遺跡が分布する地域で「県営農村活性化住環境整備事業」が計画され、10.5haの広範囲で圃場整備が実施されることとなった。遺跡内での遺構の分布状況を確認するため平成10年10月に事業対象地北東部の八反ガソウ地区と赤松地区で試掘調査を実施した。試掘調査は天貝川を挟んで南北両側の丘陵部を中心に85本のトレンチを設定して行った。その結果をうけて、まず10月から北側の八反ガソウ地区の調査を先行して実施し、平成11年3月31日までに終了させた。調査面積は8,500㎡であった。この調査では横穴式石室や火葬墓などの墳墓と、古代から中世にかけての集落が発見された。中でも、「蛸壺焼成坑」は九州初の出土例として注目された。

引き続き平成11年4月1日に中津市は大分県中津下毛地方振興局と埋蔵文化財発掘調査委託業務の契約を締結し、中津市教育委員会が同日から定留遺跡赤松地区の発掘調査を開始した。赤松地区では試掘調査の結果により、水田部分は対象外とし、標高約11mの丘陵部分のみを対象とした。調査区内は一部畑地として利用されるほかは、近年耕作が行われておらず、雑木や草が生い茂る荒れた土地であった。調査区が大変広いため、重機による遺構面の検出を数度にかけて行った。検出した遺構は、1/10、1/20、1/100の実測図及び35mm・6×6版の白黒・ポジフィルムなどで写真撮影をして記録保存した。赤松地区の調査面積は8,800㎡で、平成11年8月31日に現場におけるすべての作業を終了した。なお、発掘調査の報告書刊行にともなう業務は平成29年度に実施した。

第2節 調査の組織

定留遺跡赤松地区の発掘調査及び調査報告書刊行にともなう事業執行の組織は次のとおりである。

発掘調査（平成11年度）

調査主体 中津市教育委員会

教育長	前田 佳毅
調査事務 市民文化センター課長	尾畑 豊彦
” 係長	田中布由彦
” 係員	富田 修司
調査担当 ” 係員	高崎 章子
” 係員	花崎 徹

発掘調査に従事した作業員は次のとおりである。

穴井美保子・石塔美代子・泉 貞世・板谷 佳香・猪立山順子・今水キク子・岩崎 弘子・岩本 敏美・植山 京子・植山トミ子・植山 松枝・植山ヨシカ・宇都宮大地・大家 佳子・大沢 春代・大林 啓子・御幡三恵子・加治トキ子・上川 幸枝・辛島 雅美・木下 智子・木下みずほ・清永 洋美・草野 郁雄・久保田康夫・黒川 洋美・黒川ミユキ・相良紀誉見・塩谷 絹子・新家 節子・高野 美穂・高松 秀子・田中 静江・田中トミコ・田中 浩幸・

田畑つね子・田畑 友子・田原 文子・田畑 恵・辻原 霞・寺内 勝美・徳永 賀子・友松 美涼・中 和代・長岡久美子・中島二三恵・中村香代子・中村香代子・中村恵美子・中山 桂・中山 裕枝・西尾ミエ子・西山有美子・新田 秀勝・羽立 えり・羽立 加代・羽立ヒロコ・羽立由利子・花田 郁夫・深蔵 剛・福山 美樹・松永 理恵・松村たかこ・松本 勲・松本 貞子・水澤健太郎・水澤ミキヨ・宮崎 真理・宮久 昭人・宮久 君子・村上小十重・村上 恭憲・村上 仁・村本ヒロ子・山縣 信夫・四辻九州男・若木 和美・和智累里子

報告書刊行（平成29年度）

調査主体 中津市教育委員会

教育長

廣畑 功

調査事務 社会教育課長

高尾 良香

社会教育課文化財室長

高崎 章子

社会教育課管理・文化振興係主幹

大森 健

社会教育課管理・文化振興係主幹

磯貝 奏

社会教育課管理・文化振興係係員

湊 恵

社会教育課管理・文化振興係係員

陽 麻里奈

社会教育課管理・文化振興係係員

渡邊奈津子

社会教育課文化財係主幹

花崎 徹

社会教育課文化財係副主任研究員

浦井 直幸

担 当 社会教育課文化財係嘱託

末永 弥義

また、整理作業に従事した作業員は次のとおりである。

穴井美保子・猪立山順子・岩本 敏美・橋内 順子

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

大分県中津市は県の北部に位置し、面積は491km²に及ぶ。四至は北方が瀬戸内海西端の周防灘に開け、西が福岡県に、東が宇佐市に、南は玖珠町と日田市に接している。市の西部を北流する一級河川山国川は英彦山（標高約1,200m）を源とし、下流域では福岡県との県境をなすとともに広い沖積平野「沖代平野」を形成する。上中流域は山稜が複雑に延び、その中央部を占める国指定の名勝耶馬溪は沿岸約50kmに展開する。その地質は安山岩質集塊岩の上に熔岩がかぶさる構造で、特に集塊岩は奇観を呈している。耶馬溪は頼山陽の命名によるもので、一帯は耶馬日田英彦山国定公園の一部となっている。また、市の東部には犬丸川が北東に流れるが、沖代平野と犬丸川の間には標高10m～30m程度の洪積台地「下毛原台地」が広がっている。

第2節 歴史的環境

市内には旧石器時代以降の遺跡が数多く分布し、その一部は発掘調査されている（第1図参照）。

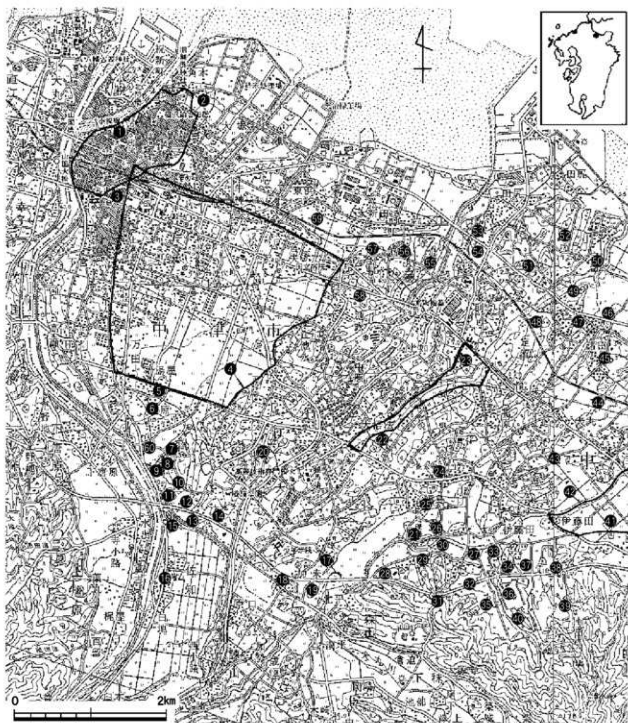
旧石器時代 旧石器時代の遺跡はまだ少ないが、諸田南遺跡（44）で尖頭器やナイフ形石器が出土している他に、才木遺跡（35）・法垣遺跡（19）などでも石器が出土している。

縄文時代 縄文時代になると、上畑成遺跡（43）で早期の無文土器が出土し、早期末から前期の黒水遺跡（18）では陥し穴が発見されている。後期になると遺跡数が増加する。後期・晩期に属する植野貝塚では牙製垂飾具・貝輪などの装身具や魚類・動物の骨などが出土し、高畑遺跡では土偶も発見されている。集落跡では古田遺跡が調査されているが、法垣遺跡は竪穴住居跡以外にも掘立柱建物跡が検出された重要な遺跡である。

弥生時代 弥生時代になると山国川や犬丸川流域の沖積平野で水稻耕作が拡大していったと考えられる。前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）や諸田遺跡（45）で貯蔵穴が発掘されている。中期では福島遺跡（25）で住居跡とともに二列埋葬の土壙墓群が確認されている。また、森山遺跡（28）では前期末から後期初頭の集落全域が把握されている。

古墳時代 古墳時代では集落や生産遺跡・墳墓などの各種の遺跡が確認されている。集落関係では後期に属する中須遺跡・十前垣遺跡・諸田遺跡・定留遺跡（47）などが調査されている。これらのうち十前垣遺跡では移動式カマドが出土し、諸田遺跡ではL字カマドを有する住居跡や籾の羽口が発見され、渡来人の系譜に属する人々の存在が推測されている。須恵器を生産した城山窯跡群（36）や草場窯跡（37）・桶ヶ迫窯跡（38）・ホヤ池窯跡（39）・大谷窯跡（40）などからなる野依伊藤田窯跡群は犬丸川中流の丘陵地帯に位置し、一部は奈良時代まで継続している。古墳では下毛原台地北部の亀山古墳（58）以外の多くの墳墓は台地の南西部に営まれている。5世紀中ごろには山国川に面する助助野地遺跡（12）で方形周溝墓が築造され、5世紀後半から7世紀前半には上ノ原横穴墓群（11）が造営される。また、三保地域には後期になると岩井崎横穴墓群（29）・城山古墳群（34）・城山横穴墓群（33）などが築造される。7世紀から9世紀の相原山首遺跡では方墳が作られている。

白鳳～平安時代 7世紀末の白鳳期に創建された相原廃寺（6）は沖代平野の南端部に位置するが、その北方約500mを隔てて西北西～東南東方向に官道「勅使街道」が整備される。この時期九州の



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原道跡 | 25. 福島道跡 | 37. 草場窯跡 | 49. 和間貝塚 |
| 2. 中津城下町道跡 | 14. 大池南道跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ道窯跡 | 50. 定留塚道跡 |
| 3. 豊田小学校校庭道跡 | 15. 佐知久保畑道跡 | 27. 前田道跡 | 39. ホヤ池窯跡 | 51. 是能道跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知道跡 | 28. 森山道跡 | 40. 大谷窯跡 | 52. 田尻大迫道跡 |
| 5. 市場道跡 | 17. 加来居屋敷道跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依道跡 | 53. 舞手橋東段上道跡 |
| 6. 相原廃寺 | 18. 黒水道跡 | 30. 大丸川流域道跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是間道跡 |
| 7. 相原山首道跡 | 19. 法垣道跡 | 31. 洞ノ上窯跡 | 43. 上畑成道跡 | 55. 全徳道跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙道跡 | 32. 安平道跡 | 44. 諸田南道跡 | 56. ガラマノ道跡 |
| 9. 坂手隈横穴墓群 | 21. ボウガキ道跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 諸田道跡 | 57. 合馬道跡 |
| 10. 弊願邸古墳 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 天貝川道跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原道跡 | 35. 才木道跡 | 47. 定留道跡 | 59. 東浜道跡 |
| 12. 勘野野地道跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山窯跡群 | 48. 定留貝塚 | 60. 三口道跡 |

第1図 定留遺跡周辺主要遺跡等分布図 (縮尺1/50,000)

中心地である大宰府と宇佐八幡神社など各地の主要施設を結ぶ陸上交通網が改良される。沖代地区条里跡(4)はこの官道を南限として8世紀初頭には沖代平野の広範囲に施行されている。古代の下毛郡衙の正倉跡である長者屋敷官衙遺跡(20)も8世紀後半に官道の南側に建設されている。集落では三口遺跡(60)で10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土している。

中世 中世の遺跡としては植野古城遺跡・諸田遺跡・中尾城跡・犬丸城跡などがあるが、諸田遺跡では堀に囲まれた居館跡が調査され、中尾城跡では土塁が現存する。犬丸城跡は犬丸氏の居城で、中尾氏・犬丸氏は黒田官兵衛の豊前入国に従わず一揆に加わり、黒田氏に攻め落とされる。16世紀末には黒田氏が入封して中津城(1)が築造されるが、石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭とされている。

近世以降 1600年関ヶ原の合戦の後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城と城下町(2)が整備・拡張されていく。城下の造営は小笠原氏が入部する1632年に完成する。その後1717年に奥平氏が入部し、1871年の廃藩置県まで奥平氏が城下を統治した。

定留遺跡赤松地区の周辺遺跡

定留遺跡では広域にわたる圃場整備事業にともない、赤松地区以外にも向地区・八反ガソウ地区・田畑地区などで試掘調査や本調査が実施されている。

特に八反ガソウ地区は天貝川をはさんで北西約150mの低台地上に隣接する遺跡で、その内容は赤松地区と類似した特徴を示している(第2図参照)。八反ガソウ地区の時代は古代から中世にかけてで、主な遺構としては竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡18棟・古墳1基である。他に当遺跡の性格を如実に示す遺構として8世紀代の蛸壺焼成坑13基が確認され、遺物には土錘も多いことから、漁労に関わる海浜集落の様相を呈する。中世には掘立柱建物跡を囲むように溝が配置され、青磁や瓦器が出土していることから、居館が存在した可能性が考えられる。



第2図 定留遺跡赤松地区調査位置図 (縮尺1/5,000)

第3章 調査の内容

定留遺跡赤松地区は中津市大字定留995番地他に所在する。遺跡の北東約1.2kmには瀬戸内海東端の周防灘の海岸線が広がっているが、古代においては海岸線は300mほどまで迫っていたと考えられる。今回発掘した赤松地区は南北に伸びる標高10～11mの低台地上に立地し、主として畑地となっていた。また、東側は段丘崖の直下に標高3m程度の低地が展開し、現況は水田となっている。北側には台地の北端を限って天貝川が南西から北東方向に流れている。

今回の調査地は低台地の東半部分で、西側から東側に向かってごく緩やかに標高を減じている。調査範囲は南北約240m・東西約80mの広域に及んだことから、調査区は北側（北区）と南側（南区）とに分けて設定した。北区は南西から北東に向かってしだいに幅が狭くなる楔形の平面形で、長さ約184m・幅約80mである。南区は長さ約65m・幅約40mで、基本的に方形の平面形をなし、中央部を南西―北東方向に走る土塁を境にして北西側が南東側に比べて一段高くなっている。

調査で検出した主な遺構は竪穴住居跡2軒・掘立柱建物跡44棟・柱穴列4条・中世墓1基・井戸2基・土塋80基・溝状遺構18条・土塁1基である。ただし、ピットは北区の全域で非常に多く確認されたため、調査担当者が認識できなかった竪穴住居跡や掘立柱建物跡・柱穴列などが他にもある可能性が高い。各種遺構の番号は基本的に調査時の番号をいかにしたこと、整理段階で種別の異なる遺構に変更したものがあつた。このため土坑の遺構番号には欠番がある。調査面積は北区が約6,500㎡、南区が約2,300㎡で、合計約8,800㎡である。

なお、多数の遺構が錯綜しているため、各遺構の位置を示すために、便宜的に10m単位で北側から南側に向かってA～V、東側から西側に向かって1～16の区割りをしてグリッドを設けた（付図参照）。例えばA1グリッドは今回調査地の北東端部の東西・南北各10mの正方形区画を示す。

1 竪穴住居跡

竪穴住居跡は方形の平面形を呈するものが北区の中央部よりやや南側で隣接して2軒確認された（付図参照）。ただし、これら以外にも大型の土坑や不明遺構のなかには、その平面形からみて竪穴住居跡の可能性もあるものが含まれる。

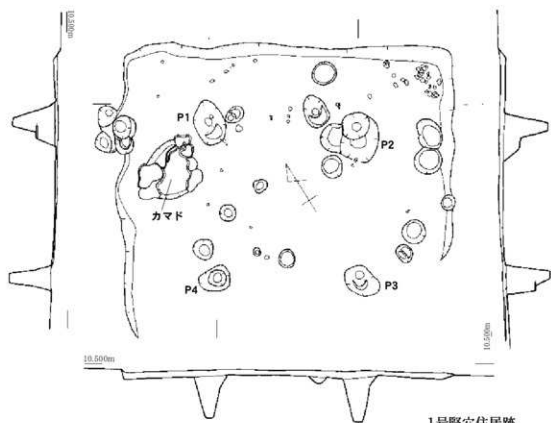
1号竪穴住居跡（第3図）

1号竪穴住居跡はK9・K10グリッドに位置し、42号掘立柱建物跡と切り合っている。遺構検出面の標高は約10.40mである。

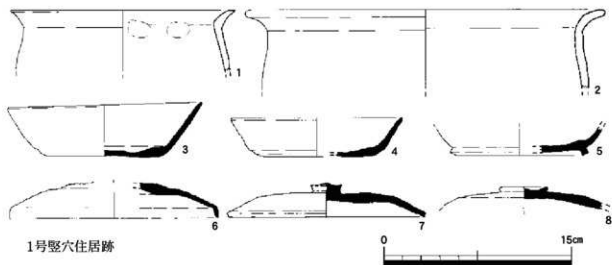
遺構検出面が南側に向かってしだいに低くなっているため、遺構の南辺は削平されて残存しなかった。床面の平面形は基本的に正方形と推定され、規模は遺構検出面で長さ7.20mをはかり、幅は残存部分で6.28mである。主柱穴はほぼ正方形に配置された4本が検出され、間隔はP3―P4間が3.04m、P1―P4間が3.28mである。主柱穴の大きさは最大のもので長径0.95m・深さ0.95mである。北西辺の壁面に近いやや北東側の床面で炭や粘土が検出され、カマドと考えられる。床面はほぼ平坦面をなし、遺構検出面からの深さは最も深い部分で0.19mである。

遺物は埋土中の東隅部分を中心に土師器の甕や須恵器の罎・蓋などの土器片が多数出土している。1・2は土師器の甕の口縁部から体部上位の破片である。1はやや小型で、口縁部が体部から「く」の字状に屈折して開き、先端部が尖り気味である。2はやや大型で、口縁部が体部から屈曲し

ながら開き、体部の張りが弱い。3～8は須恵器である。3～5は坏で、3・4は体部が直線的に外上方に開き、5は内縁部で接地する高台をもつ。6～8は蓋で、6は口縁端部がほぼ垂直に下がり、7・8は扁平なつまみを有する。



第3図 竪穴住居跡実測図 (縮尺1/80)



第4図 竪穴住居跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)

2号竪穴住居跡 (第3図)

2号竪穴住居跡はJ 9・K 9グリッドに位置し、11号溝状遺構に切られている。遺構検出面の標高は約10.40mである。

遺構は11号溝状遺構により南西部の約半分が削平されているが、床面の平面形は基本的に正方形と推定される。遺構検出面の規模は幅が4.15mで、長さは残存部分で2.84mである。主柱穴と断定できる柱穴は確認できなかった。遺構内の北隅から北西部にかけて焼土や粘土が残存しており、北西辺にカマドが設置されていたと考えられる。床面は平坦で、遺構検出面からの深さは最も深い部分で、0.10mである。

遺物は埋土中から土師器や須恵器の破片が出土しているが、小片のため図示していない。

2 掘立柱建物跡

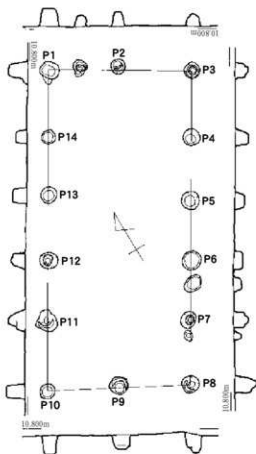
掘立柱建物跡は北区の北端部・南端部を除くほぼ全域に分布する(付図参照)。構造は総柱建物・側柱建物のほかに廂をもつ可能性がある建物もある。建物の主軸の方位は地形の制約によるものか、等高線に対して並行または直交するものが大部分である。調査時及び整理作業時に掘立柱建物跡として認識したものは44棟である。

1号掘立柱建物跡 (第5図)

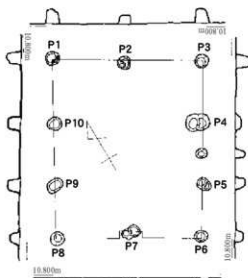
1号掘立柱建物跡はE 6・F 6・E 7グリッドに位置し、2号・3号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴間の切り合いはない。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が5間で長さ10.30m、梁間は2間で幅4.60m、床面積約47.38m²である。柱間の間隔は桁行では南端のP 7～P 8間・P 10～P 11間が2.38mとやや広いが、他の部分は1.98m程度である。梁間は2.30mのほぼ等間隔である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP 1で直径68cmである。柱痕跡はP 2・P 3・P 7～P 9・P 11・P 12などで確認され、直径は床面で18cm前後である。柱穴の遺構検出面からの深さは最も深いP 10で61cmである。主軸の方位はN-32°-Eである。

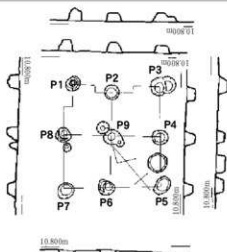
遺物はP 3・P 7～P 10などから土師器の坏などが出土している(第13図)。9はP 8から出土した土師器の坏である。内縁部で接地する高台をもつ。



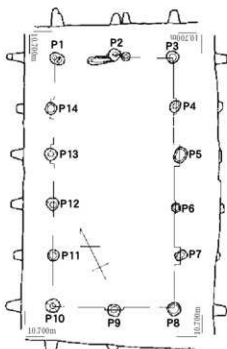
1号掘立柱建物跡



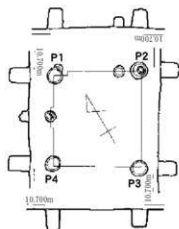
2号掘立柱建物跡



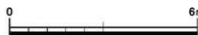
3号掘立柱建物跡



4号掘立柱建物跡



5号掘立柱建物跡



第5图 掘立柱建物跡実測图1 (縮尺1/120)

2号掘立柱建物跡（第5図）

2号掘立柱建物跡はE 6グリッドに位置し、2号・3号掘立柱建物跡と重複し、一部の柱穴が3号掘立柱建物跡と切り合っているが、先後関係は不明である。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側建物跡である。規模は桁行が3間で長さ5.80m、梁間は2間で4.76m、床面積は約27.61㎡である。柱間の間隔は桁行では南端のP 5 - P 6間・P 8 - 9間が1.70mとやや狭いが、他の部分は2.05m前後である。梁間は2.38mのほぼ等間隔である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP 4で直径56cmである。柱痕跡は検出できなかった。柱穴の深さは最も深いP 1で46cmである。P 4が3号掘立柱建物跡のP 3と切り合っている。主軸の方位はN-30°-Eである。

遺物はP 1・P 7から土師器や須恵器が出土しているが、小片のため図示していない。

3号掘立柱建物跡（第5図）

3号掘立柱建物跡はE 6グリッドに位置し、1号・2号掘立柱建物跡と重複し、一部の柱穴が2号掘立柱建物跡と切り合っているが、先後関係は不明である。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する総建物跡である。規模は桁行が2間の長さ3.30m、梁間も2間で幅2.90m、床面積は約9.57㎡である。柱間の間隔は桁行で1.65m、梁間で1.45mのほぼ等間隔である。ただし、配置はP 1がやや東側に、P 2がやや南側に偏っている。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP 5で長径62cmである。柱痕跡はP 1・P 6・P 8で検出され、P 1では床面での直径が14cmである。柱穴の深さは最も深いP 1で38cmである。主軸の方位はN-40°-Eである。

遺物はP 5から土師器が出土しているが、小片のため図示していない。

4号掘立柱建物跡（第5図）

4号掘立柱建物跡はF 5グリッドに位置し、6号土坑と切り合っているが、先後関係は不明である。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側建物跡である。規模は桁行が5間の長さ8.00m、梁間が2間の幅3.90m、床面積は約31.2㎡である。柱間の間隔は桁行で1.60m、梁間で1.95mのほぼ等間隔である。各柱穴は平面形が基本的に円形であるが、P 5・P 7は隅丸長方形を呈する。大きさは最大のP 10で直径44cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP 1で59cmである。主軸の方位はN-27°-Eである。

遺物はP 1・P 8・P 10・P 11・P 12・P 14などから土師器の塊・皿や須恵器が出土している(第13図)。10は土師器の塊の口縁部の小片で、端部付近で屈曲して開く。11は土師器の皿または杯の底部である。

5号掘立柱建物跡（第5図）

5号掘立柱建物跡はF 6グリッドに位置し、32号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴間の切り合いはない。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する方1間の建物跡である。規模は桁行が長さ3.00m、梁間が幅2.80m、床面積は約8.40㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP 2で直径50cmである。柱痕跡はP 2で検出され、床面での長径が18cmである。柱穴の深さは最も深いP 4で68cmと比較的深い。なお、P 1・P 4間にやや小型の柱穴が確認されたが、この建物跡に伴う遺構かどうか不明である。主軸の方位はN-30°-Eである。

遺物はP1・P2・P3から土師器や須恵器が出土しているが、小片のため図示していない。

6号掘立柱建物跡（第6図）

6号掘立柱建物跡はF6・F7・G7グリッドに位置し、7号・37号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴間の切り合いはない。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側建物跡である。全体的に柱穴の配置がやや不規則であり、規模は桁行が6間で東辺の長さ8.00m、梁間は3間で南辺の幅4.8mで、床面積は約38.4㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP8で61cmである。柱痕跡はP4・P13～P15で検出され、直径は床面で17cm前後である。柱穴の深さは最も深いP1で69cmをはかる。なお、P4・P5間には2本の柱穴が存在したと推定されるが、他の遺構により破壊されている。主軸の方位はN-38°-Eである。

遺物はP2～P4・P13・P16から土師器の坏・皿、須恵器の蓋、黒曜石などが出土している（第13図）。12・13は土師器で、12は体部が口縁部に向かって直線的にのびる坏である。13は皿で、体部が外反気味に開く。14は須恵器の蓋で、端部が嘴状にさがる。

7号掘立柱建物跡（第6図）

7号掘立柱建物跡はF6・F7・G7グリッドに位置し、6号・37号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴間の切り合いはない。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側建物跡である。柱穴の配置は東辺が主軸に対してやや斜行し、規模は桁行が3間で長さ5.90m、梁間は2間で幅が北辺で3.80m、南辺で4.20mで、床面積は約23.6㎡ある。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP9で長径52cmである。柱痕跡はP3で検出され、床面の長径が18cmである。柱穴の深さは最も深いP2で48cmである。主軸の方位はN-38°-Eである。

遺物はP3～P7から土師器の壺・蛸壺や須恵器が出土している（第13図）。15・16はともに土師器で、15は壺かと考えられ、口縁端部が小さく外反する。16は蛸壺の体部下半の破片である。

8号掘立柱建物跡（第6図）

8号掘立柱建物跡はG6・H6グリッドに位置し、35号・36号掘立柱建物跡と重複し、一部の柱穴が35号掘立柱建物跡と切り合っている。遺構検出面の標高は約10.60mである。

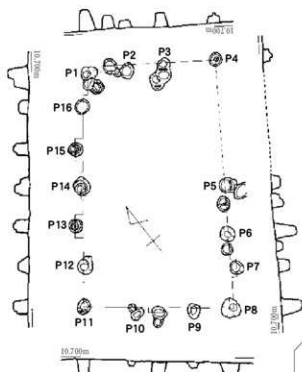
建物跡の構造は等高線に対して直交する方2間の総柱建物跡である。柱穴の配置は北辺が主軸に対してやや斜行し、規模は桁行が西辺で3.94m、東辺で長さ3.72m、梁間は3.70mで、床面積は約14.0㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP7で長径59cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP6で62cmをはかる。P2が35号掘立柱建物跡のP6と切り合っている。主軸の方位はN-43°-Wである。

遺物はP3・P6から土師器・須恵器が出土しているが、小片のため図示していない。

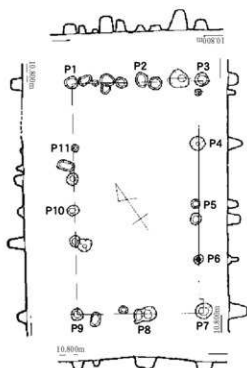
9号掘立柱建物跡（第6図）

9号掘立柱建物跡はG7グリッドに位置し、10号・37号・38号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

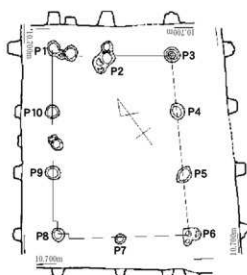
建物跡の構造は等高線に対して並行する側建物跡である。規模は桁行が4間の長さ7.46m、梁間が2間の幅4.10m、床面積は約31.2㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP7で直径53cm、最小のP11で直径22cmと差が著しい。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP7で62cmをはかる。なお、P8・P9間に柱穴が1本存在していたと推定されるが



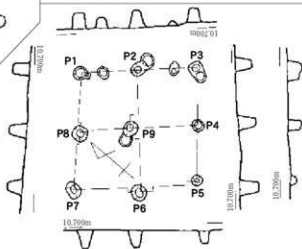
6号掘立柱建物跡



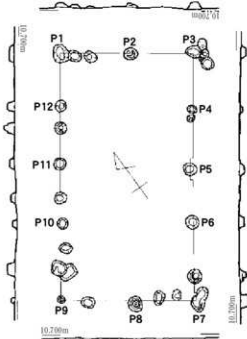
9号掘立柱建物跡



7号掘立柱建物跡



8号掘立柱建物跡



10号掘立柱建物跡

第6図 掘立柱建物跡実測図2 (縮尺1/120)

検出できなかった。主軸の方位はN-33°-Eである。

遺物はP1・P4・P7・P8から土師器の坏・器種不明土器、須恵器などが出土している（第13図）。17・18はともに土師器で、17は坏の体部下位から底部の小片である。18は器種が不明であるが、内面に同心円の当て具痕がある。

10号掘立柱建物跡（第6図）

10号掘立柱建物跡はG7・H7・G8・H8グリッドに位置し、9号・38号・39号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が4間の長さ7.94m、梁間が2間の幅4.30m、床面積は約34.1㎡である。柱間の間隔は桁行では南端のP6-P7間・P9-P10間が2.45mとやや広いが、他の部分は1.83m程度である。梁間は2.15mのほぼ等間隔である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP1で長径60cm、最小のP9で直径22cmと差が著しい。柱痕跡はP8で検出され、床面の直径は10cmである。柱穴の深さは最も深いP7でも25cmと浅い。主軸の方位はN-33°-Eである。

遺物はP1～P5・P8・P11・P12から土師器の坏・皿や須恵器の蓋・甕などが出土している（第13図）。19～21は土師器で、19・20が坏の体部下位から底部の小片、21は皿の小片である。

11号掘立柱建物跡（第7図）

11号掘立柱建物跡はI5・H6・I6グリッドに位置し、46号土坑と重複している。遺構検出面の標高は約10.80mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する方2間の総柱建物跡である。規模は桁行が3.58m、梁間が2.60mで、床面積は約9.31㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP8で直径74cmをはかり、全体的にやや大きい。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP9で71cmをはかる。主軸の方位はN-49°-Wである。

遺物は出土していない。

12号掘立柱建物跡（第7図）

12号掘立柱建物跡はI6・J6グリッドに位置する。遺構検出面の標高は約10.10mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が2間の長さ3.60m、梁間が1間で幅が北辺で幅1.70m、南辺で2.00mである。床面積は約7.20㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP1で直径50cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP1でも32cmとやや浅い。主軸の方位はN-56°-Wである。

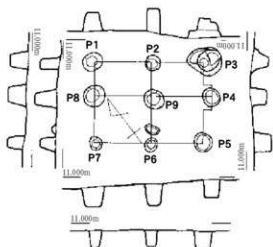
遺物はP1・P4から須恵器が出土しているが、小片のため図示していない。

13号掘立柱建物跡（第7図）

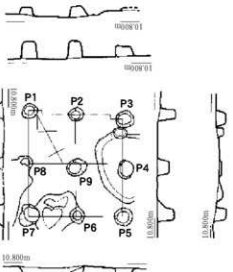
13号掘立柱建物跡はI7・J7グリッドに位置する。遺構検出面の標高は約10.20mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する方2間の建物跡である。柱穴の配置はP6がやや北側に偏っている。規模は桁行が長さ4.64m、梁間の幅は西辺で3.40m、東辺で4.13m、床面積は約17.45㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP5で長径43cmである。柱痕跡はP7で検出され、床面の長径が13cmである。柱穴の深さは最も深いP3でも39cmとやや浅い。主軸の方位はN-49°-Wである。

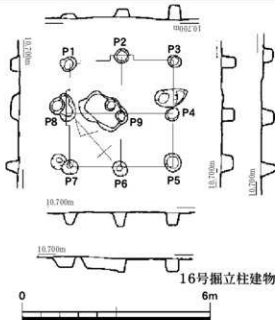
遺物はP3・P4から土師器や須恵器の蓋が出土している（第13図）。24は須恵器の蓋で口縁端部が嘴状を呈する。



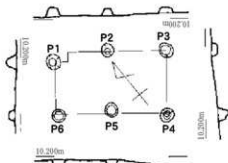
11号掘立柱建物跡



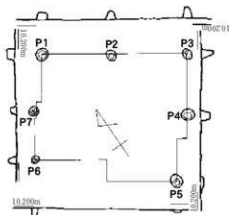
14号掘立柱建物跡



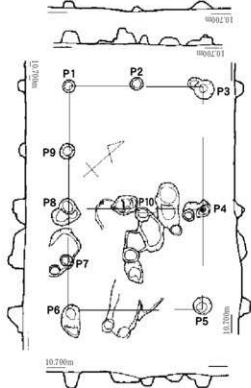
16号掘立柱建物跡



12号掘立柱建物跡



13号掘立柱建物跡



15号掘立柱建物跡

第7图 掘立柱建物跡実測图3 (縮尺1/120)

14号掘立柱建物跡（第7図）

14号掘立柱建物跡はH8・H9グリッドに位置し、28号・74号土坑と切り合っている。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する方2間の総柱建物跡である。規模は桁行が長さ3.24m、梁間が幅3.00mで、床面積は約9.72㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP7で長径67cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP1で56cmである。主軸の方位はN-32°-Eである。

遺物はP2・P3・P5・P8・P9から土師器の坏・皿や須恵器が出土している（第13図）。25～27は土師器で、25はやや大型の皿の可能性があり、26・27は坏で、27は低平な高台を有する。

15号掘立柱建物跡（第7図）

15号掘立柱建物跡はI8・I9グリッドに位置し、16号掘立柱建物跡と重複する。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が4間の長さ7.10m、梁間が2間の幅4.30mで、床面積は約30.53㎡である。P4・P8間に間仕切りが入る可能性がある。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP3で直径63cmである。柱痕跡はP4で検出され、床面の直径が10cmである。柱穴の深さは最も深いP6で49cmである。なお、P3・P4間とP4・P5間とP5・P6間にそれぞれ1本の柱穴が存在したと推定される。主軸の方位はN-32°-Eである。

遺物は出土していない。

16号掘立柱建物跡（第7図）

16号掘立柱建物跡はI8・I9グリッドに位置し、15号掘立柱建物跡と重複する。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する方2間の総柱建物跡である。規模は桁行が長さ3.30m、梁間が幅3.30mで、床面積は約10.89㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP5で直径60cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP3で45cmである。主軸の方位はN-42°-Eである。

遺物はP7・P8から須恵器が出土している（第13図）。28は須恵器の壺かと考えられる体部上位の破片である。

17号掘立柱建物跡（第8図）

17号掘立柱建物跡はI8・J8グリッドに位置する。遺構検出面の標高は約10.60mである。

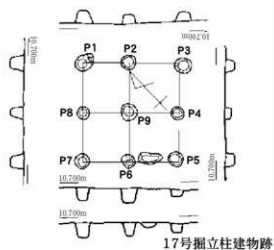
建物跡の構造は等高線に対して並行する方2間の総柱建物跡である。規模は桁行が長さ3.20m、梁間が幅3.10mで、床面積は約9.92㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP9で直径54cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP9で48cmである。主軸の方位はN-43°-Eである。

遺物は出土していない。

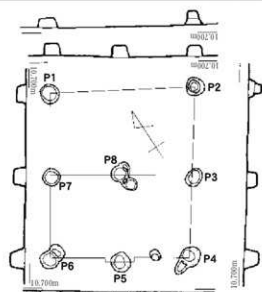
18号掘立柱建物跡（第8図）

18号掘立柱建物跡はJ7・J8・K8グリッドに位置し、北東隅が30号・40号掘立柱建物跡と重複し、西辺の桁行が11号溝状遺構内にある。遺構検出面の標高は約10.20mである。

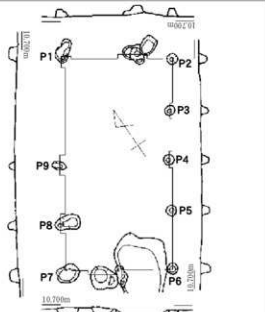
建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が5間の長さ10.30m、梁



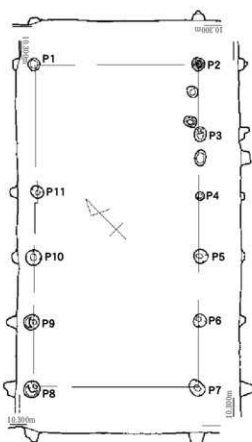
17号掘立柱建物跡



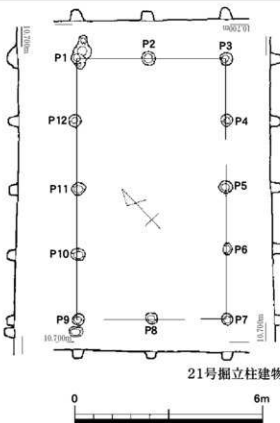
19号掘立柱建物跡



20号掘立柱建物跡



18号掘立柱建物跡



21号掘立柱建物跡



第8図 掘立柱建物跡実測図4 (縮尺1/120)

間は中間の柱穴が検出されていないが2間と推定され、幅5.24mで、床面積は約53.97㎡である。各柱穴は平面形が基本的に円形で、大きさは最大のP7で長径56cmである。柱痕跡はP2・P3・P8・P9で検出され、床面の直径が14cm前後である。柱穴の深さは最も深いP8で47cmである。P1・P2間とP7・P8間とP11・P1間にそれぞれ1本の柱穴が存在したと推定される。主軸の方位はN-42°-Eである。

遺物は出土していない。

19号掘立柱建物跡（第8図）

19号掘立柱建物跡はI9・I10・K10グリッドに位置する。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する方2間の総柱建物跡である。規模は桁行の長さ5.36m、梁間の幅が4.60m、床面積は約24.66㎡である。柱穴の平面形は一部に隅丸方形を呈するものがあるが、基本的に円形で、大きさは最大のP5で長径66cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP5で51cmである。P1・P2間に柱穴が1本存在したと推定される。主軸の方位はN-37°-Eである。

遺物はP1・P5・P7から土師器や須恵器の坏が出土している（第13図）。29は須恵器の坏の体部中位から口縁部の小片で、体部が外上方に直線的に立ち上がる。

20号掘立柱建物跡（第8図）

20号掘立柱建物跡はH7・H8・I8グリッドに位置し、39号掘立柱建物跡・55号土坑と重複する。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が4間の長さ6.76m、梁間が2間と推定され幅約3.40m、床面積は約22.98㎡である。柱穴の平面形は一部に隅丸方形を呈するものがあるが、基本的に円形で、大きさは最大のP9で長径46cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP6で31cmである。P1・P2間とP9・P1間にそれぞれ1本の柱穴が存在したと推定される。主軸の方位はN-35°-Eである。

遺物はP3・P4・P6・P9から土師器の鉢や器種不明土器、須恵器の蓋、黒曜石などが出土している（第13図）。30・31は土師器で、30は器種不明の高台を有する底部の小片である。31は鉢または甕の体部中位から口縁部の破片で、口縁部が体部から屈曲しながら大きく開く。32・33は須恵器の蓋の口縁部の小片である。ともに体部下端が水平に開いたのち口縁部が嘴状にさがる。

21号掘立柱建物跡（第8図）

21号掘立柱建物跡はJ10・J11・K11グリッドに位置し、43号掘立柱建物跡・37号土坑と重複する。遺構検出面の標高は約10.60mである。

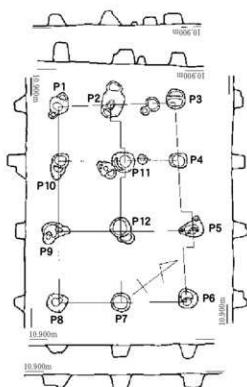
建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が4間の長さ8.27m、梁間が2間の幅3.94m、床面積は約32.58㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP10で長径45cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP3で36cmである。主軸の方位はN-45°-Eである。

遺物は土師器が出土しているが、小片のため図示していない。

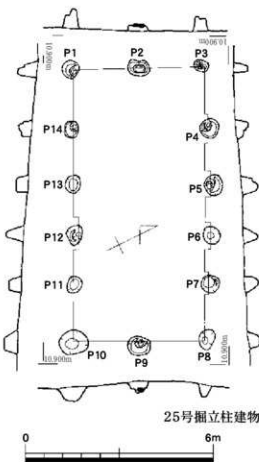
22号掘立柱建物跡（第9図）

22号掘立柱建物跡はH11・H12グリッドに位置し、44号掘立柱建物跡と重複する。遺構検出面の標高は約10.80mである。

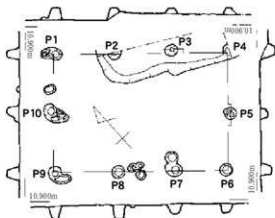
建物跡の構造は等高線に対して直交する総柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ6.22m、梁



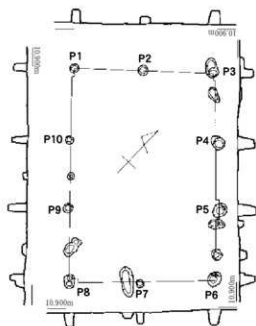
22号掘立柱建物跡



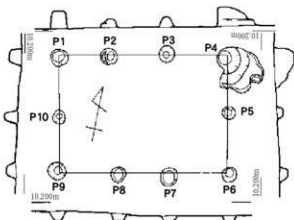
25号掘立柱建物跡



23号掘立柱建物跡



24号掘立柱建物跡



26号掘立柱建物跡

第9図 掘立柱建物跡実測図5 (縮尺1/120)

間が2間の幅4.10mで、床面積は約25.50㎡である。柱穴の平面形は隅丸方形ないし円形で、大きさは最大のP2で長径82cmである。柱痕跡は床面の長径が24cm前後である。柱穴の深さは最も深いP10で61cmをはかる。主軸の方位はN-55°-Wである。

遺物は土師器の蓋が出土している(第13図)。34は須恵器の製作技法を模した土師器の蓋である。

23号掘立柱建物跡(第9図)

23号掘立柱建物跡はG11・G12・H11・H12グリッドに位置し、44号掘立柱建物跡・3号柱穴列・36号土坑などと重複する。遺構検出面の標高は約10.80mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ5.58m、梁間が2間の幅3.77mで、床面積は約21.03㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP7で長径56cmである。柱痕跡はP5で床面の直径が16cmである。柱穴の深さは最も深いP1で41cmである。主軸の方位はN-50°-Wである。

遺物は土師器や須恵器が出土しているが、小片のため図示していない。

24号掘立柱建物跡(第9図)

24号掘立柱建物跡はI12・I13グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ6.85m、梁間が2間の幅4.68mで、床面積は約32.05㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP6で長径50cmであるが、全体的に径がやや小さい。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP9で61cmをはかる。主軸の方位はN-43°-Wである。

遺物は土師器が出土しているが、小片のため図示していない。

25号掘立柱建物跡(第9図)

25号掘立柱建物跡はL9・L10・M10グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が5間の長さ8.72m、梁間が2間の幅4.33mで、床面積は約37.75㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP10で長径93cmであるが、全体的には55cm前後である。柱痕跡は複数の柱穴で検出されており、床面での直径は15cm～20cmほどである。柱穴の深さは最も深いP1で63cmをはかる。主軸の方位はN-68°-Wである。

遺物は土師器や須恵器の蓋が出土している(第13図)。35は土師器の蓋かと考えられる口縁部の小片である。口縁端部が水平な平坦面をなす。36は須恵器の蓋の体部下位から口縁部の小片である。口縁端部が喇叭状に下がる。

26号掘立柱建物跡(第9図)

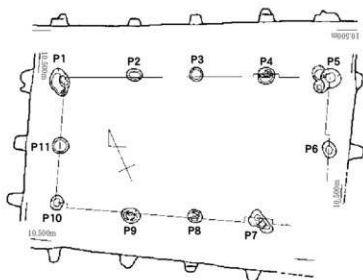
26号掘立柱建物跡はL11グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.10mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ5.40m、梁間が2間の幅3.78mで、床面積は約20.41㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP7で長径58cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP4で62cmをはかる。主軸の方位はN-80°-Eである。

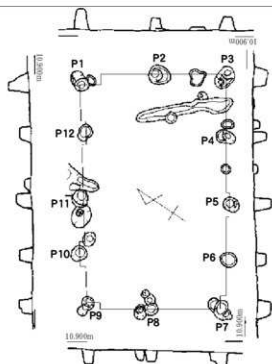
遺物は土師器が出土しているが、小片のため図示していない。

27号掘立柱建物跡(第10図)

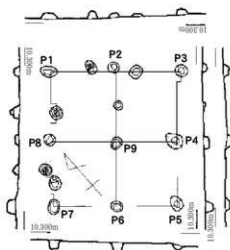
27号掘立柱建物跡はL12・L13グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.40mである。



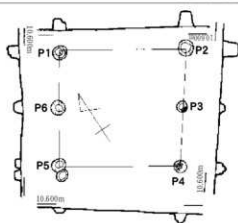
27号掘立柱建物跡



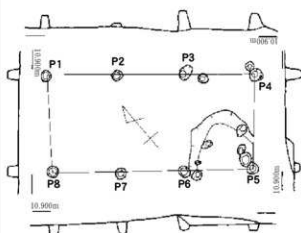
28号掘立柱建物跡



30号掘立柱建物跡



29号掘立柱建物跡



31号掘立柱建物跡



第10図 掘立柱建物跡実測図6 (縮尺1/120)

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が4間の長さ8.60mで、梁間は2間であるが西側に比べて東側の柱間が広くっており、北隅の柱穴が検出されていない。西側のP1-P10の幅は3.94mである。床面積は37㎡程度と推定される。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP5で長径65cmである。柱痕跡はP4・P9で検出され、床面での直径が16cm前後である。柱穴の深さは最も深いP10で46cmである。主軸の方位はN-65°-Wである。

遺物は土師器が出土している(第13図)。37は壺かと考えられる体部上位から口縁部の小片で、口縁端部が小さく外反する。

28号掘立柱建物跡(第10図)

28号掘立柱建物跡は北区南投隅のK15・L15グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が4間の長さ7.52mで、梁間は2間の幅4.60mで、床面積は約34.59㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP2で長径70cmをはかる。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP11で66cmである。主軸の方位はN-55°-Eである。

遺物は須恵器が出土しているが、小片のため図示していない。

29号掘立柱建物跡(第10図)

29号掘立柱建物跡はL15・M15グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.50mである。

建物跡の構造は方2間の側柱建物跡と推定されるが、北東辺と南西辺では中間の柱穴が検出されていない。規模は長さ3.86m、幅3.72mで、床面積は約14.36㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP2で長径52cmである。柱痕跡はP4で検出され、床面での長径は14cmである。柱穴の深さは最も深いP2で47cmである。主軸の方位はN-57°-Wである。

遺物は出土していない。

30号掘立柱建物跡(第10図)

30号掘立柱建物跡はJ7・J8グリッドに位置し、18号・40号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.10mである。

建物跡の構造は方2間の総柱建物跡で、規模は長さ4.31m・幅4.06mで、床面積は約17.50㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP4で長径60cmをはかるが、全体的には40cm前後である。柱痕跡は確認されていない。柱穴の深さは最も深いP7でも29cmと浅い。主軸の方位はN-40°-Eである。

遺物は土師器や須恵器が出土しているが、小片のため図示していない。

31号掘立柱建物跡(第10図)

31号掘立柱建物跡はF7・F8グリッドに位置し、10号・35号土坑と重複している。遺構検出面の標高は約10.80mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ6.61mで、梁間は北西辺と南東辺に柱穴が1本ずつ存在していたと仮定すると2間で幅3.10m、床面積は約20.49㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP3で長径51cmをはかるが、全体的には40cm前後である。柱痕跡は確認されていない。柱穴の深さは最も深いP3で65cmをはかる。主軸の方位はN-50°-Eである。

遺物は須恵器が出土している(第13図)。38は坏または瓶の底部の小片である。下部が段をつけ

て細くなる、やや高い高台を有する。

32号掘立柱建物跡 (第11図)

32号掘立柱建物跡はF 6グリッドに位置し、5号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.50mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する総柱または側柱の建物跡である。規模は北西-南東方向の長さ4.09mで、幅は2.60mである。床面積は約10.63m²である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 2で長径47cmである。柱痕跡は確認されていない。柱穴の深さは最も深いP 5で38cmである。主軸の方位はN-60°-Wである。

遺物は土師器が出土している(第13図)。39は口縁部から体部上位の小片で、体部が上位に向かって直線的に開く。

33号掘立柱建物跡 (第11図)

33号掘立柱建物跡はG 4・G 5グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.30mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が2間の長さ4.00mで、梁間は1間で幅が北西辺で2.80m、南東辺で3.23mである。床面積は約20.49m²である。北西-南東方向の長さ4.09mで、幅は2.60mである。床面積は約12.06m²である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 1で長径78cmをはかるが、全体的には35cm前後である。柱痕跡は確認されていない。柱穴の深さは最も深いP 1で44cmである。主軸の方位はN-50°-Wである。

遺物は出土していない。

34号掘立柱建物跡 (第11図)

34号掘立柱建物跡はG 4・H 4グリッドに位置し、52号土坑と重複している。遺構検出面の標高は約10.20mである。

建物跡の構造は方2間の側柱建物跡と考えられるが、南東辺の中間の柱穴が検出されていない。規模は南西辺が4.27mで、南東辺が4.64mに対して北西辺が4.10mと狭くなっている。床面積は約18.66m²である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 2で長径56cmである。柱痕跡はP 1で検出され、床面での直径が25cmである。柱穴の深さは最も深いP 2で63cmをはかる。主軸の方位はN-30°-Eである。

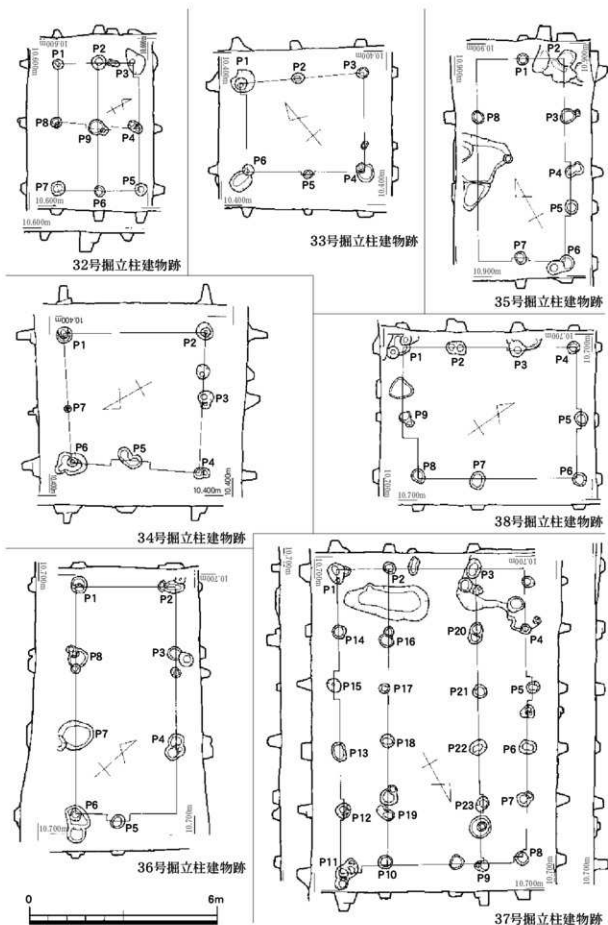
遺物は出土していない。

35号掘立柱建物跡 (第11図)

35号掘立柱建物跡はG 6グリッドに位置し、8号掘立柱建物跡、9号・83号土坑と重複している。遺構検出面の標高は約10.90mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が3間または4間の長さ6.51mで、梁間は2間の幅2.98mである。床面積は約19.40m²である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 2で長径58cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP 4で44cmである。主軸の方位はN-28°-Eである。

遺物は土師器や須恵器が出土している(第13図)。40は土師器の塊かと考えられる口縁部から体部中位の小片で、体部中位で内湾気味に立ち上がる。41は須恵器の蓋の体部下位から口縁部の小片で、体部下端が水平に開く。42は土師器の皿で、体部が中位で小さく屈折して、口縁部に向かって外反しながら開く。



第11図 掘立柱建物跡実測図7 (縮尺1/120)

36号掘立柱建物跡 (第11図)

36号掘立柱建物跡はG 6・G 7・H 6・H 7グリッドに位置し、8号掘立柱建物跡、21号・22号土坑、11号溝状遺構などと重複している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ7.30mで、梁間は2間の幅3.19mである。床面積は約23.28㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 8で長径64cmである。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP 4で25cmと浅い。主軸の方位はN-47°-Wである。

遺物は土師器が出土している(第13図)。43は坯の体部下位から底部の小片である。44は甕または甕の口縁部の小片で、外面の口縁端部直下に小さい段をめぐらす。

37号掘立柱建物跡 (第11図)

37号掘立柱建物跡はF 6・F 7・G 7グリッドに位置し、6号・7号・9号掘立柱建物跡や16号・90号土坑などと重複している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する総柱建物跡である。規模は桁行が5間の長さ9.52mで、梁間は3間の幅6.00mである。床面積は今回調査した掘立柱建物跡の中でも最大の約57.12㎡である。柱間の間隔は桁行はほぼ等間隔であるが、梁間は中央部が3.0mと広がっていることから、両面廂の建物の可能性もある。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 3で長径64cmをはかるが、全体的には45cm前後である。柱痕跡はP 12で検出され、床面での直径が24cmである。柱穴の深さは最も深いP 11で57cmである。主軸の方位はN-28°-Eである。

遺物は土師器や須恵器が出土している(第13図)。45は土師器の高坯の脚部小片で、下端部は内側縁で接地する。46・47は須恵器の甕と考えられる口縁部から頸部の破片である。46は口縁部が頸部から屈折して直立する。47は口縁端部の外側縁が尖り気味になっている。

38号掘立柱建物跡 (第11図)

38号掘立柱建物跡はG 7・G 8・H 7・H 8グリッドに位置し、9号・10号・39号掘立柱建物跡や15号土坑と重複している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ5.60mで、梁間は2間の幅4.20mである。床面積は約23.52㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 1で長径70cmをはかるが、全体的には40cm前後である。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP 2で30cmである。主軸の方位はN-35°-Eである。

遺物は出土していない。

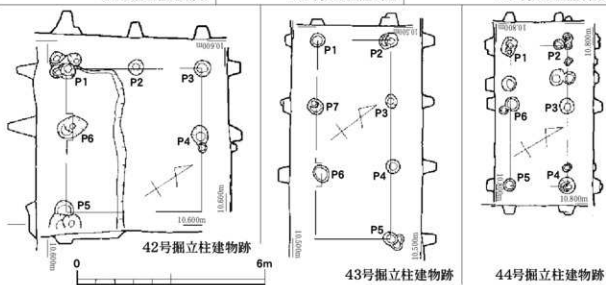
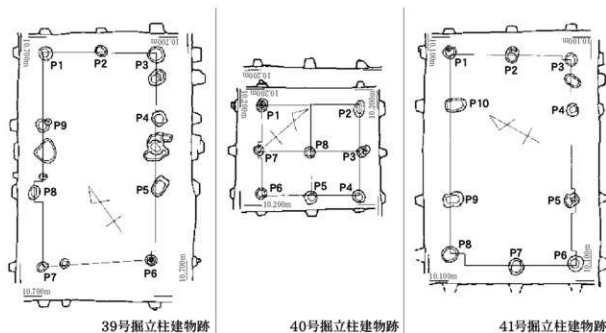
39号掘立柱建物跡 (第12図)

39号掘立柱建物跡はH 7・H 8グリッドに位置し、10号・20号・38号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ6.87mで、梁間は2間の幅3.60mである。床面積は約24.73㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP 5で長径65cmをはかるが、全体的には40cm前後である。柱痕跡はP 6で検出されたが、床面での直径が7cmと細い。柱穴の深さは最も深いP 3で30cmである。主軸の方位はN-35°-Eである。

遺物は出土していない。

40号掘立柱建物跡 (第12図)



第12図 掘立柱建物跡実測図8 (縮尺1/120)

40号掘立柱建物跡はJ7・J8グリッドに位置し、18号・30号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.10mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する方2間の総柱建物跡である。規模は長さ3.26m・幅2.90mで、床面積は約9.45㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP2で長径53cmをはかるが、全体的には40cm前後である。柱痕跡はP1で検出されたが、床面での直径が6cmと細い。柱穴の深さは最も深いP8で31cmである。主軸の方位はN-42°-Eである。

遺物は出土していない。

41号掘立柱建物跡 (第12図)

41号掘立柱建物跡はK8・K9・L8・L9グリッドに位置する。遺構検出面の標高は約10.00mである。

建物跡の構造は等高線に対して並行する側柱建物跡である。規模は桁行が3間の長さ6.71mで、梁間は2間の幅3.90mである。床面積は約26.17㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP10で長径66cmをはかるが、全体的には40cm前後である。柱痕跡は検出されていない

い。柱穴の深さは最も深いP10で28cmと浅い。主軸の方位はN-63°-Eである。

遺物は出土していない。

42号掘立柱建物跡 (第12図)

42号掘立柱建物跡はJ9・J10・K9・K10グリッドに位置し、1号竪穴住居跡と重複する。遺構検出面の標高は約10.50mである。

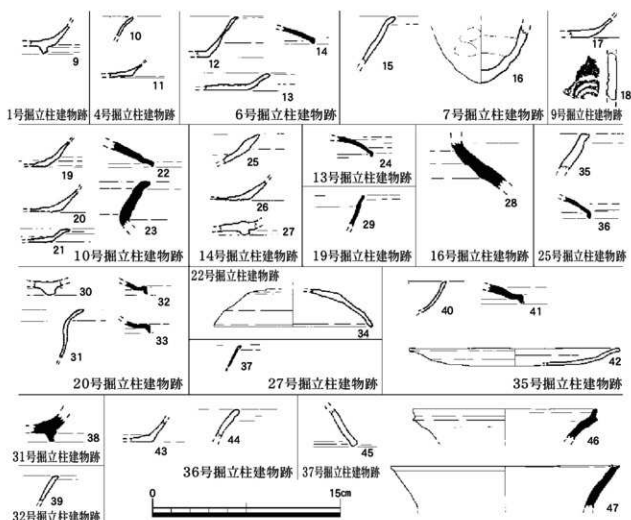
建物跡の構造は方2間の側柱建物跡であるが、北東隅と南西辺中間の柱穴2本が検出されていない。規模は長さ4.63m・幅4.33mで、床面積は約20.04㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP6で長径97cmをはかるが、全体的には50cm前後である。柱痕跡は検出されていない。柱穴の深さは最も深いP6で92cmをはかる。主軸の方位はN-57°-Wである。

遺物は出土していない。

43号掘立柱建物跡 (第12図)

43号掘立柱建物跡はJ11・K11グリッドに位置し、21号掘立柱建物跡と重複する。遺構検出面の標高は約10.40mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する建物跡で、南東隅の柱穴1本が確認できなかった。規模は桁行が3間の長さ6.35mで、梁間は1間の幅2.40mである。床面積は約15.24㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP2で長径58cmである。柱痕跡はP7で検出され、床面で



第13図 掘立柱建物跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)

の直径が16cmである。柱穴の深さは最も深いP4で44cmである。主軸の方位はN-53°-Wである。遺物は出土していない。

44号掘立柱建物跡 (第12図)

44号掘立柱建物跡はH11・H12グリッドに位置し、22号・23号掘立柱建物跡、3号柱穴列と重複する。遺構検出面の標高は約10.70mである。

建物跡の構造は等高線に対して直交する建物跡である。規模は桁行が2間の長さ4.50mで、梁間は1間の幅1.82mである。床面積は約8.19㎡である。柱穴の平面形は基本的に円形で、大きさは最大のP1で長径58cmであるが、全体的には45cm前後である。柱痕跡はP4で検出され、床面での直径が22cmである。柱穴の深さは最も深いP1で29cmと浅い。主軸の方位はN-60°-Wである。

遺物は出土していない。

3 柱穴列

柱穴列として識別した遺構は4条で、すべて北区に位置する。構造は一系列に直線的にのびる遺構が3条、矩形に屈折する遺構が1条である。

1号柱穴列 (第14図)

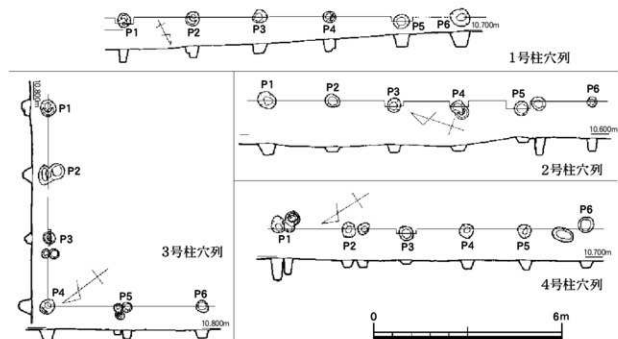
1号柱穴列はM9・M10グリッドに位置し、25号掘立柱建物跡の南東側に並行している。遺構検出面の標高は約10.70mである。

柱穴列は等高線に対して直交する方向に一系列に配置され、5間分で長さ10.8mが確認された。柱穴は基本的に平面形が円形で、大きさは最大のP6で長径65cmである。深さは最も深いP6で55cmである。主軸の方位はN-65°-Wである。

遺物は出土していない。

2号柱穴列 (第14図)

2号柱穴列はH6・I6グリッドに位置し、11号・36号掘立柱建物跡、46号土坑、11号溝状遺



第14図 柱穴列実測図 (縮尺1/120)

構などと重複している。遺構検出面の標高は約10.50mである。

柱穴列は等高線に対してやや斜交する方向に一列に配置され、5間分で長さ10.36mが確認された。柱穴は基本的に平面形が円形で、大きさは最大のP1で長径59cmである。深さは最も深いP6で43cmである。主軸の方位はN-19°-Wである。

遺物は出土していない。

3号柱穴列（第14図）

3号柱穴列はG11・H11・H12グリッドに位置し、23号・44号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.70mである。

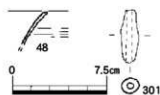
柱穴列は等高線に沿って直交及び並行する形で直角に曲がる構造である。規模は直交する部分3間の長さ6.40m、並行する部分が2間の長さ4.96mである。柱穴は平面形が基本的に円形で、最大のP4で長径54cm、深さが39cmである。主軸の方位はP1-P4がN-51°-Wである。

遺物は出土していない。

4号柱穴列（第14図）

4号柱穴列はF7・G7グリッドに位置し、6号・37号掘立柱建物跡と重複している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

柱穴列は等高線に対して並行する方向に一列に配置され、5間分で長さ9.60mが確認された。柱穴は基本的に平面形が円形で、大きさは最大のP6で長径50cmである。深さは最も深いP1で50cmである。主軸の方位はN-33°-Eである。



第15図 柱穴列出土遺物実測図（縮尺1/3）

遺物は柱穴内から土師器の環と土錘が出土している（第15図）。48は環の口縁部から体部中位の小片で、口縁部に向かって外反気味である。301は土錘で、縦長の棒状を呈する。

4 中世墓

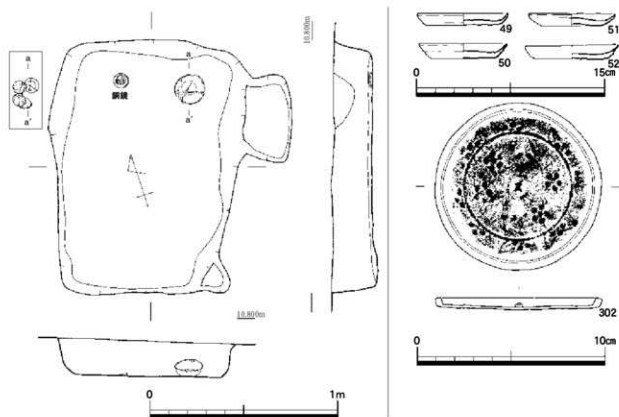
中世墓と断定した遺構は1基のみであるが、土坑の中にはその形状から埋葬施設の可能性が考えられる遺構が複数ある。

1号中世墓（第16図）

1号中世墓はF7グリッドに位置している。遺構検出面の標高は約10.60mである。

遺構の平面形は長方形を呈するが、東辺の北側にある方形の張り出しがこの遺構に伴うものかどうかは不明である。規模は長さ1.35m・幅1.02m、深さは最も深い部分で0.24mである。床面はほぼ平坦面をなすが、北端部が南端部に比べてわずかに2cmほど高くなっている。遺物も北側に集中していることから、こちら側が頭位方向かと考えられる。主軸の方位はN-18°-Eである。

遺物は北東隅に近い部分から瓦器の塊1点とその下部から土師器の小皿4点が出土している（第16図）。また、北西隅に近い部分から銅鏡が出土しており、その上下から木製の容器と考えられる円形の板が出土した。49～52は土師器の小皿で、底部は確認できたものすべてが回転糸切り離しである。302は銅鏡で文様の形式からみて草花双鳥鏡である。裏面の中央部に小さい紐孔があり、その外側に直径5.8cmの圏線をめぐらし、その内・外に草花文や鳥と考えられる文様が施されている。外縁は幅0.35cm・高さ0.4cmの凸帯をめぐらす。現状は全体的に緑青におおわれている。表面はわずかに凸面をなし、一部で光沢を保つが、大部分は緑青におおわれている。大きさは直径8.9cm・高さ0.65cmで、鏡面の厚さが0.15cm、重量は70.0gである。



第16図 中世墓及び中世墓出土遺物実測図 (縮尺1/20・1/3・1/2)

5 井戸

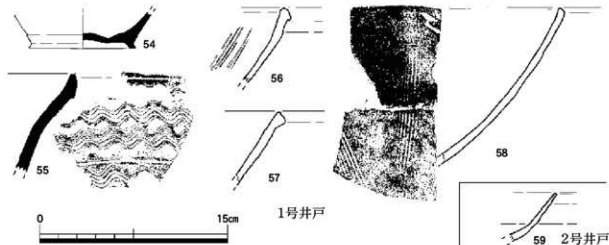
井戸は今回の調査では北区の北西辺に沿って2基が確認された。

1号井戸 (第18図)

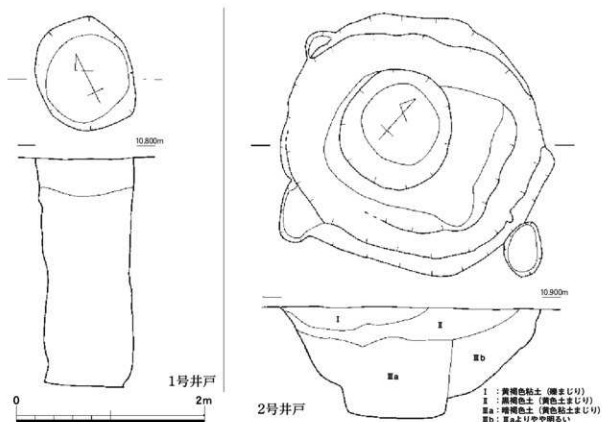
1号井戸はG9グリッドに位置し、5号溝状遺構の東側に隣接している。遺構検出面の標高は約10.70mである。

遺構は素掘りの井戸で、遺構検出面から床面まで幅がほぼ一定の構造である。検出面の平面形はやや楕円形を呈し、規模は長径1.18m・短径1.01mである。床面の規模は長径0.94m・短径0.88mである。深さは2.43mをはかる。

遺物は須恵器の瓶・甕、土師器の鏃鉢、瓦器の鉢などが出土している (第17図)。54・55は須恵器で、54は瓶の底部の破片で、外下方に開く高台をもつ。55は甕の頸部から口縁部の破片で、頸部



第17図 井戸出土遺物実測図 (縮尺1/3)



第18図 井戸実測図 (縮尺1/40)

に沈線を1条めぐらし、その上下に櫛描き波状文を施す。口縁端部は直立し、器壁をやや厚くしている。56・58は土師器の播鉢で、内面に粗いおろし目が施されている。57は瓦器の鉢の口縁部から体部上位の破片で、口縁部の器壁をやや厚くする。

2号井戸 (第18図)

2号井戸はJ 14グリッドに位置し、5号溝状遺構の西側に隣接している。遺構検出面の標高は約10.80mである。

遺構は素掘りの井戸であるが、床面に比べて遺構検出面が非常に大きく、上位に何らかの付属施設が設置されていた可能性もある。遺構検出面の平面形はわずかに楕円形を呈し、大きさは長径2.82m・短径2.65mである。床面は長径0.87m、深さは1.17mと浅い。

遺物は陶器の皿が出土している (第17図)。59は皿の口縁部から体部中位の小片で、内外面の全面に透明の釉が薄く施されている。

6 土坑

土坑の名称をあてた遺構は調査区全域に合計80基が分布し、その規模や構造は多様である。これらの中には埋葬施設や堅穴住居跡が含まれている可能性がある。ただし、調査中に土坑としての番号を付した遺構のうち20号・29号・47号・57号・62号～64号・76号・77号・80号・86号の11基は他種の遺構に変更したため、欠番としている。なお、各遺構の詳細についての記述は本書の紙数の関係で省略したが、遺構の図面 (第19図～第27図) と一覧表 (第1表) 並びに出土遺物の図面 (第28図～第31図) と観察表 (第3表・第4表) を掲載した。

第1表 土坑一覧表

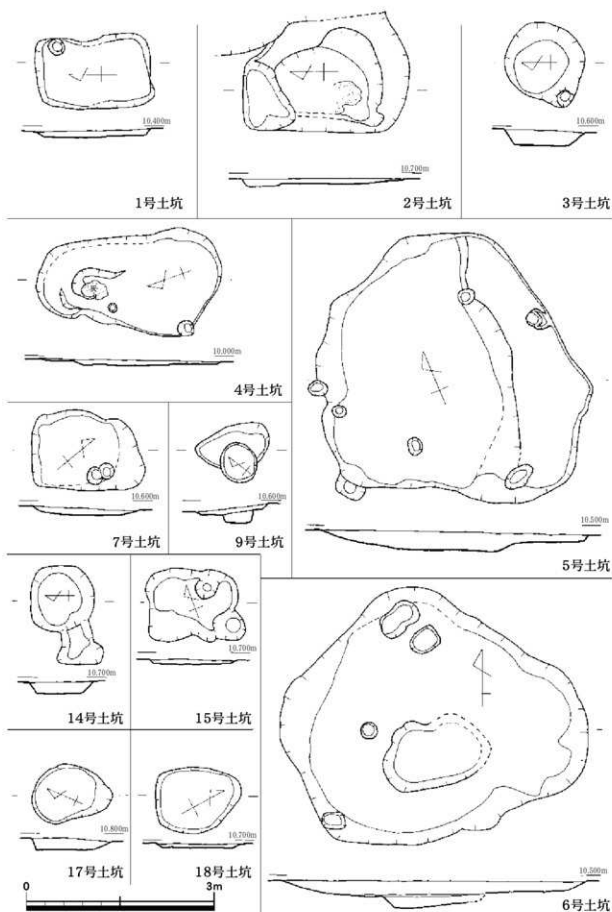
単位:m

遺構 番号	グリッド名	平面形	長さ	幅	深さ	切り合い
						遺物番号
出土遺物						
1	B2	長方形	1.84	1.20	0.17	
	土師器(埴)					60
2	C3	不整形	2.60	(1.84)	0.15	
	土師器(甕・壺・高杯)、須恵器(皿)					61~64
3	E5	ほぼ円形	1.28	1.24	0.30	
	土師器、須恵器					
4	G3	楕円形	2.90	1.76	0.11	
	土師器(壺?)、須恵器					65
5	F4	不整形	4.30	4.20	0.36	
	土師器(蛸壺)、須恵器、陶器、石鏃(黒曜石)					
6	F5	不整形	4.88	4.10	0.27	4号掘立柱建物跡
	土師器(蛸壺)、須恵器、陶磁器(埴)、土鏃、鉄					303
7	F5	隅丸方形	1.70	1.30	0.12	4号掘立柱建物跡
	土師器(埴)、須恵器(蓋)					66-67
8	G6	ほぼ円形	1.08	1.12	0.19	88号土坑
	土師器(甕)					
9	G6	不整形	1.14	0.94	0.06	35号掘立柱建物跡
	土師器、須恵器					
10	F8-G8	不整形	4.20	2.73	0.25	31号掘立柱建物跡
	土師器(埴・皿・甕・蛸壺)、須恵器(埴・高杯?)、土鏃、磁石					68~77-304~306
11	D6	不整形	6.10	?	0.18	12号-13号土坑
	土師器(埴・埴?甕・蛸壺)、須恵器(皿・蓋・壺)、緑釉陶器(埴?皿・瓶)、土鏃					78~89
12	D6	不整形	2.40	1.28	?	11号-13号土坑
	土師器					
13	D6	ほぼ円形	0.85	0.80	?	11号-12号土坑
	土師器(埴)					90
14	F7	不整形	1.62	1.06	0.21	
	土師器(埴?甕・蛸壺)・須恵器(埴)・陶器、土鏃					91~93-307~309
15	G8	不整形	1.42	1.14	0.14	10号-38号掘立柱建物跡
	土師器・須恵器					
16	G7-G8	不整形	4.83	3.33	0.24	37号掘立柱建物跡
	土師器(皿・甕・蛸壺)・須恵器(皿)					94~96
17	G8	楕円形	1.28	0.92	0.17	
	土師器・土鏃					310
18	G8	楕円形	1.36	1.06	0.09	
	土師器・須恵器					
19	F8-G8	楕円形	1.90	0.94	0.28	
	土師器・須恵器(甕?)					97
20	欠番	1号井戸に変更				
21	H6	楕円形	1.16	0.92	0.16	36号掘立柱建物跡
	土師器					
22	H6-H7	隅丸長方形	2.34	1.58	0.10	
	土師器・須恵器(埴)					98
23	H7	長方形	4.96	2.00	0.14	
	土師器・須恵器(埴?)					99
24	H9	不整形	2.72	0.80	0.50	
	なし					

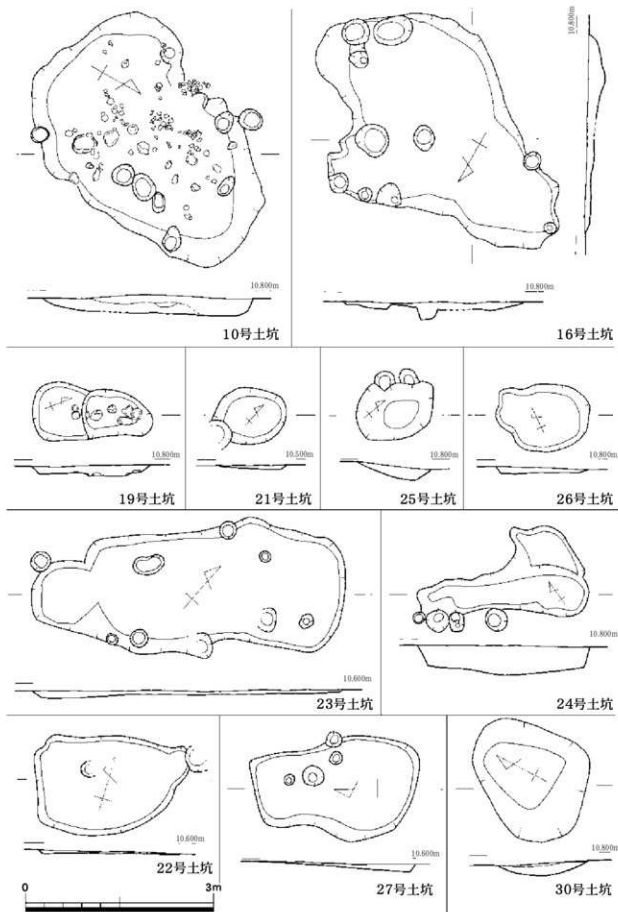
遺構 番号	グリッド名	平面形	長さ	幅	深さ	切り合い
						出土遺物
25	H9・H10	円形	1.20	0.90	0.20	75号土坑
	なし					
26	H9	不整形	1.48	1.08	0.14	
	土師器					
27	H8	不整形	2.54	1.70	0.15	
	須恵器					
28	H8・H9	隅丸方形?	2.78	2.36	0.18	14号掘立柱建物跡
	土師器(皿)・須恵器(坏)					100~101
29	欠番	SX6に変更				
30	E7	ほぼ円形	1.42	1.24	0.11	
	須恵器					
31	E8・F8	不整形	2.10	1.28	0.29	32号土坑・1号不明遺構
	土師器・須恵器					102
32	E8・F8	不整形	3.96	2.44	0.16	31号土坑・1号不明遺構
	土師器(坏・蓋)・須恵器・埴輪陶器(埴?)					103~105
33	J13	隅丸長方形	1.70	1.00	0.14	
	土師器(蛸壺)・磁器					
34	F8	円形	0.76	0.68	0.20	
	なし					
35	F8	隅丸長方形	3.24	3.16	0.10	31号掘立柱建物跡
	須恵器					
36	G11・H11	楕円形	7.80	3.48	0.27	23号掘立柱建物跡
	土師器(坏)					106~107
37	J10・J11	隅丸長方形	3.46	1.78	0.06	21号掘立柱建物跡
	土師器					
38	H13・I13	長方形	(2.22)	1.26	0.20	
	なし					
39	J12	隅丸長方形	1.48	(0.70)	0.19	
	鉄					
40	J12	楕円形	(0.86)	0.88	0.21	41号土坑
	土師器(蓋)・須恵器・陶器・ガラス・瓦・鉄					
41	I12・J12	長方形	1.24	0.74	0.77	40号土坑
	磁器・瓦・鉄					
42	K15	不整形	3.92	2.30	0.17	43号土坑
	土師器(甗)・須恵器					108~109
43	K15	不整形	5.56	(3.74)	0.09	42号土坑
	土師器・須恵器					
44	K15	不整形	(3.18)	1.46	0.19	6号溝状遺構
	なし					
45	M15・M16	不明	3.64	(2.08)	0.13	
	なし					
46	H5・H6・I5・I6	不整形	14.48	9.88	0.11	56号・71号土坑・11号掘立柱建物跡
	土師器(坏?甗)・須恵器(坏・蓋・甗・甗)・灰釉陶器?(甗)					110~120
47	欠番	1号竪穴住居跡に変更				
48	E5	不整形	6.54	4.65	0.54	
	土師器(皿・蛸壺・カマド?)・須恵器(坏・皿・蓋?)					121~125

遺構 番号	グリッド名	平面形	長さ	幅	深さ	切り合い 遺物番号
	出土遺物					
49	L11・L12	不整形	4.28	(4.40)	0.08	126
	土師器・須恵器(蓋)					
50	I4	不明	2.46	(0.80)	0.52	51号土坑
	土師器・須恵器					
51	I4	楕円形	2.08	1.34	0.29	50号土坑
	土師器(坏)・須恵器					
52	H3・H4	隅丸方形	3.40	3.30	0.22	34号据立柱建物跡
	土師器・須恵器・土鐘					
53	H5	ほぼ円形	1.82	1.62	0.21	127
	土師器・土鐘					
54	I8	ほぼ円形	1.72	(1.60)	0.25	128
	土師器(坏・蛸壺)・須恵器					
55	I8		7.14	6.96	0.75	20号据立柱建物跡
	土師器(埴・皿・甕・蛸壺)・須恵器(坏・埴・皿?蓋)・土鐘					
56	I5	楕円形	2.26	1.80	0.23	46号土坑
	土師器(甕?)・須恵器(蓋)					
57	欠番	2号竪穴住居跡に変更				
58	L13	ほぼ円形	1.80	1.70	0.09	78号土坑
	土師器					
59	L13	不整形	1.76	1.64	0.15	78号土坑
	なし					
60	K14・L14	不整形	5.40	4.10	0.52	142~150
	土師器(坏・埴・甕・カマド)・須恵器(坏)・陶器					
61	M12	不整形	(1.86)	1.00	0.36	なし
62	欠番	15号溝状遺構に変更				
63	欠番	16号溝状遺構に変更				
64	欠番	17号溝状遺構に変更				
65	M12・M13	不整形	3.52	(3.04)	0.29	17号溝状遺構
	土師器					
66	M12・M13	不整形	2.28	1.54	0.10	なし
67	K13・K14	不明	(1.58)	(0.88)	0.13	5号溝状遺構
	弥生土器?鉢?)土師器(蛸壺)・須恵器					
68	N12	不整形	1.22	0.98	0.58	151
	なし					
69	N14・O14	楕円形	1.28	(0.60)	0.17	なし
	土師器(蛸壺)					
70	C5	不整形	1.18	0.96	0.44	2号溝状遺構
	なし					
71	H5・I5	隅丸長方形	1.80	1.20	0.28	46号土坑
	須恵器(蓋)					
72	M12	隅丸長方形	2.02	0.98	0.21	152

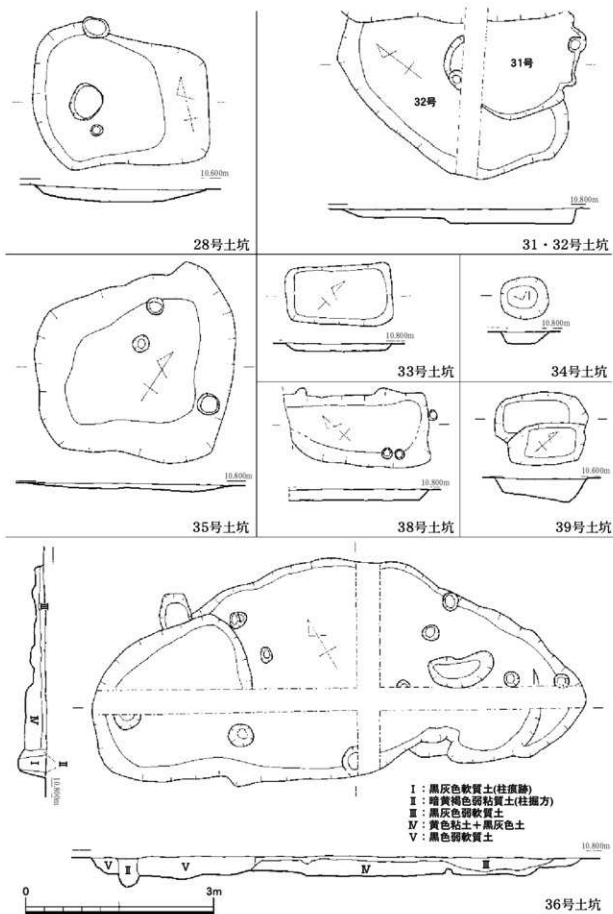
遺構 番号	グリッド名	平面形	長さ	幅	深さ	切り合い
	出土遺物					遺物番号
73	I12	楕円形	(0.74)	0.70	0.05	
	土師器(胡臺)					
74	H9	不整形	1.64	1.22	0.45	14号掘立柱建物跡
	土師器(甕)					
75	H9	不整形	3.80	3.54	0.10	25号土坑
	土師器(皿)・陶器					
76	欠番					
77	欠番					
78	K13-L13	不整形	3.20	2.10	0.61	59号土坑
	土師器(坏)					
79	K13	不整形	2.70	1.74	0.19	155-156
	土師器・陶器					
80	欠番					
81	N14	楕円形	2.18	1.20	0.43	
	土師器					
82	T14	楕円形	1.94	1.20	0.25	
	土師器					
83	R12-R13-S13	不整形	6.70	5.84	0.18	
	土師器(坏)・須恵器					
84	R13-R14	不整形	2.94	2.04	0.04	157-158
	土師器					
85	Q11-Q12	不整形	2.82	1.60	0.22	
	陶器					
86	欠番					
87	F6	楕円形	1.44	0.92	0.13	
	土師器、須恵器					
88	F6-G6	不整形	5.56	3.26	0.05	35号掘立柱建物跡-8号土坑
	土師器(坏)、須恵器					
89	G7	楕円形	1.40	0.64	0.17	
	土師器、須恵器(坏?)					
90	G7	楕円形?	2.72	1.12	0.15	9号・37号掘立柱建物跡
	土師器(坏・皿)、須恵器(皿)					
91	H5-H6	不整形	2.82	1.80	0.15	161-162
	土師器・須恵器(坏?蓋)・土鍾					
						163-164



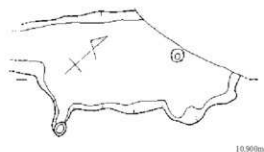
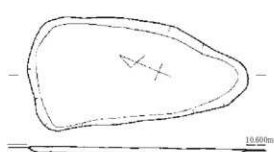
第19图 土坑实测图1 (縮尺1/60)



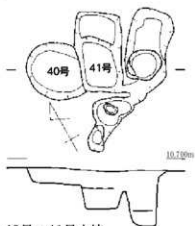
第20圖 土坑実測図2 (縮尺1/60)



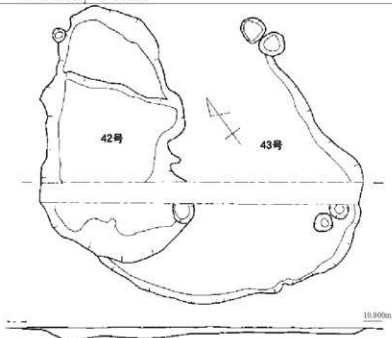
第21圖 土坑実測図3 (縮尺1/60)



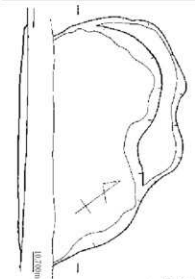
37号土坑 44号土坑



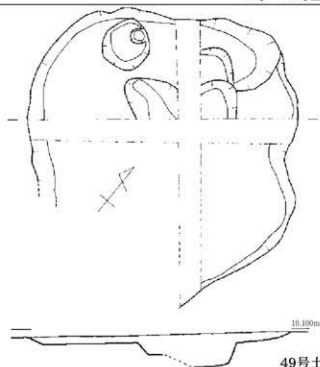
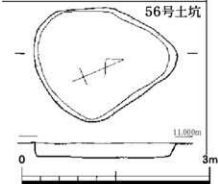
40号·41号土坑



42号·43号土坑

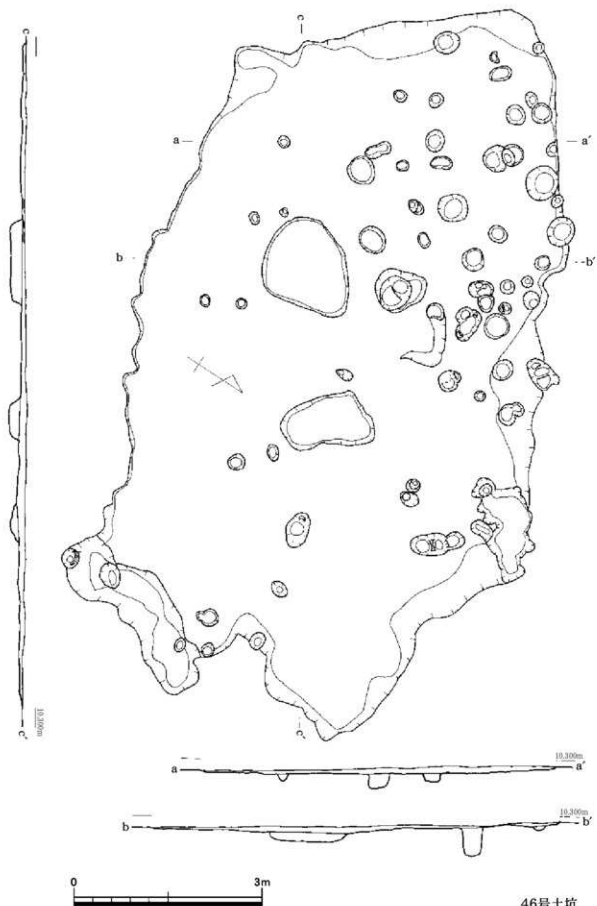


45号土坑
56号土坑



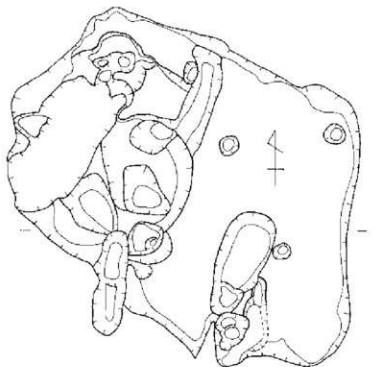
49号土坑

第22图 土坑实测图4 (缩尺1/60)



第23圖 土坑実測図5 (縮尺1/60)

46号土坑

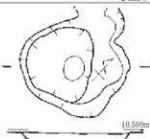


I : 暗褐色土 (灰・焼土を微量含む)
 II : Iより暗い暗褐色土
 III : 褐色土 (黄色土を多量に含む)

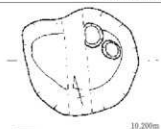
48号土坑



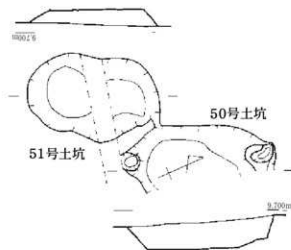
53号土坑



54号土坑

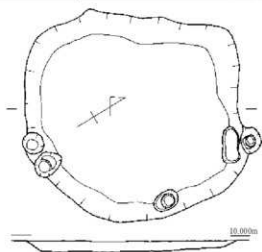


58号土坑

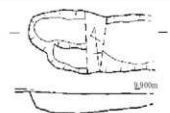


50号土坑

51号土坑



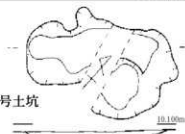
52号土坑



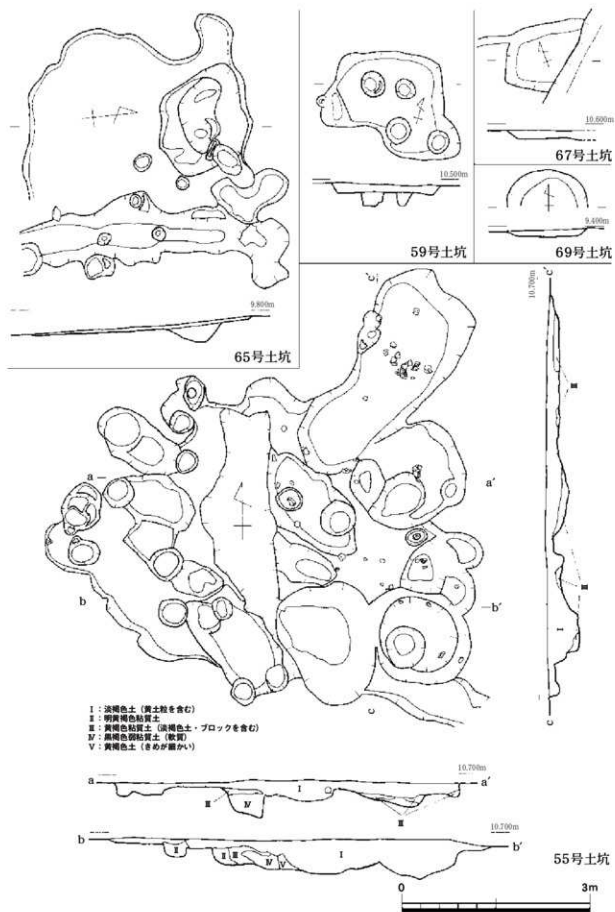
61号土坑



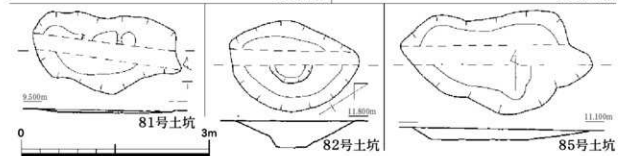
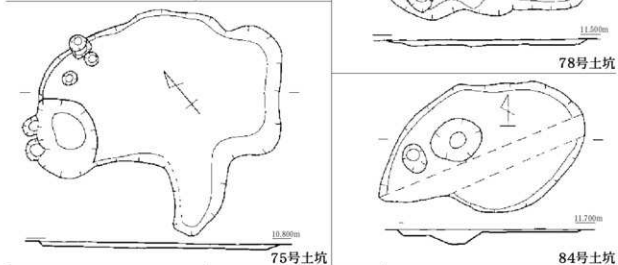
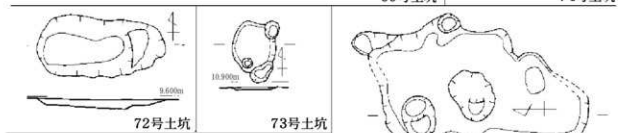
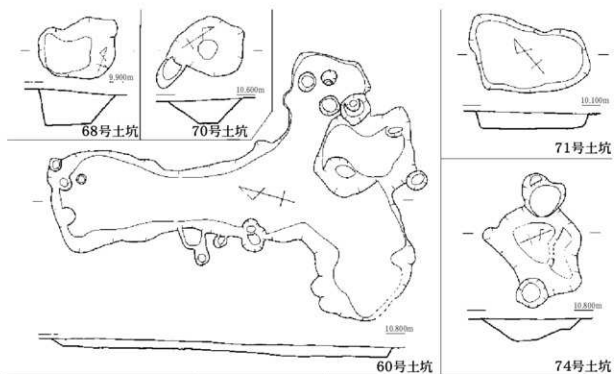
66号土坑



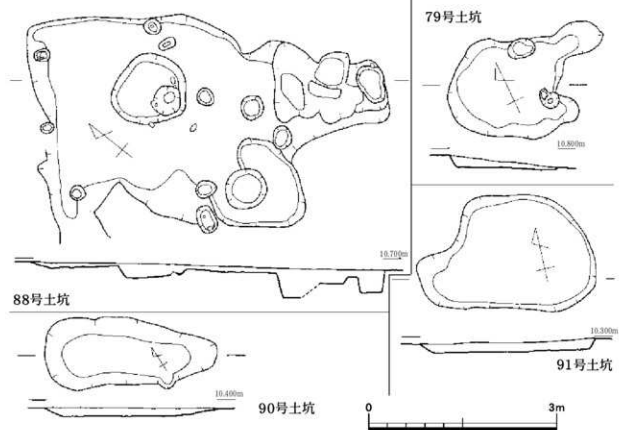
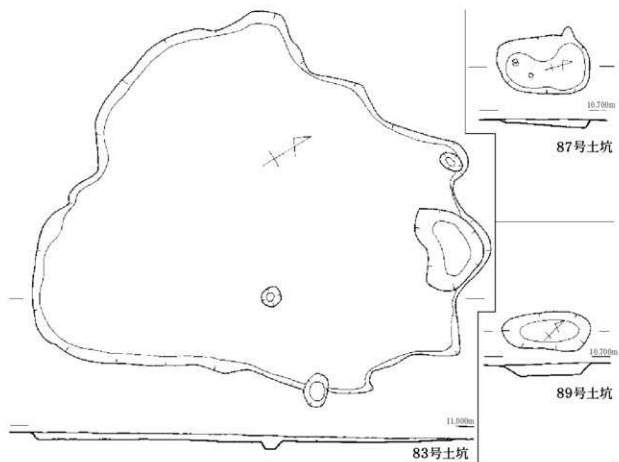
第24図 土坑実測図6 (縮尺1/60)



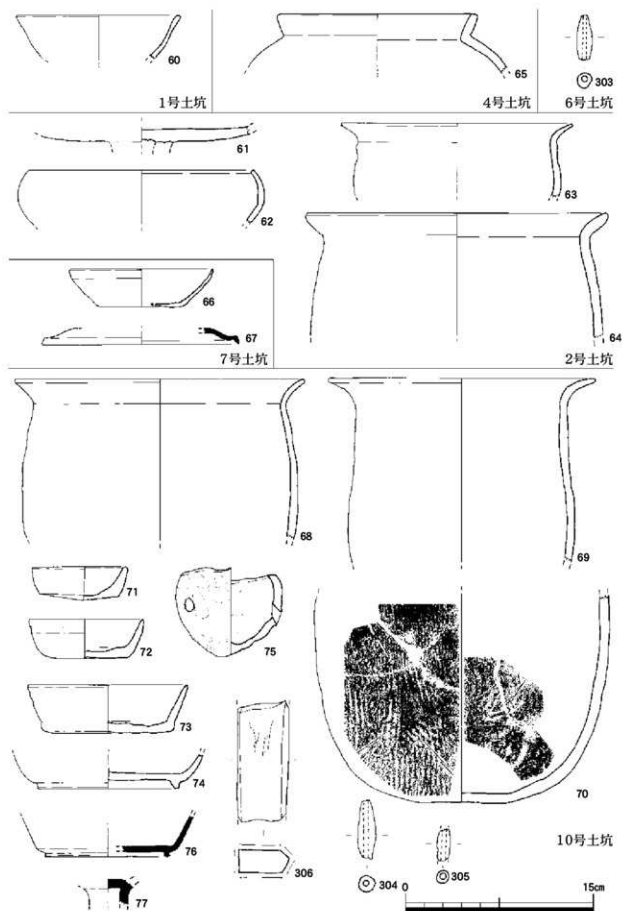
第25図 土坑実測図7 (縮尺1/60)



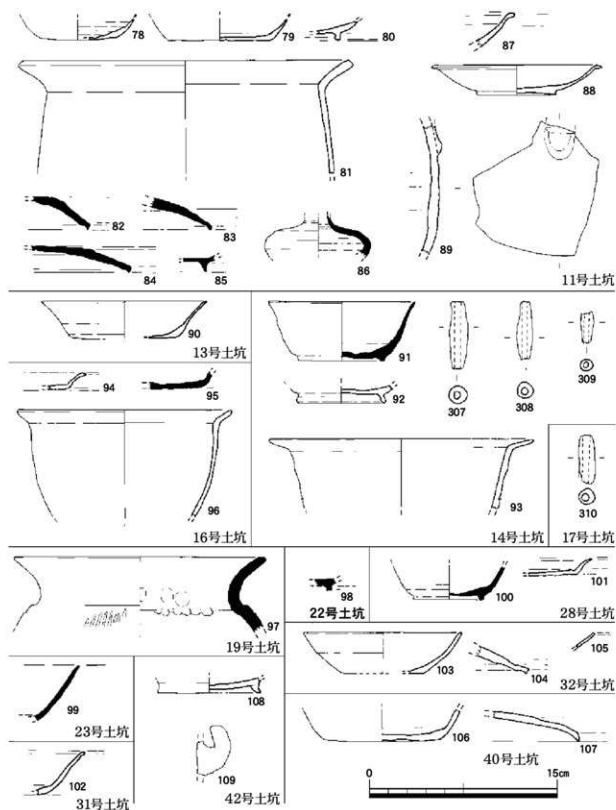
第26圖 土坑実測圖8 (縮尺1/60)



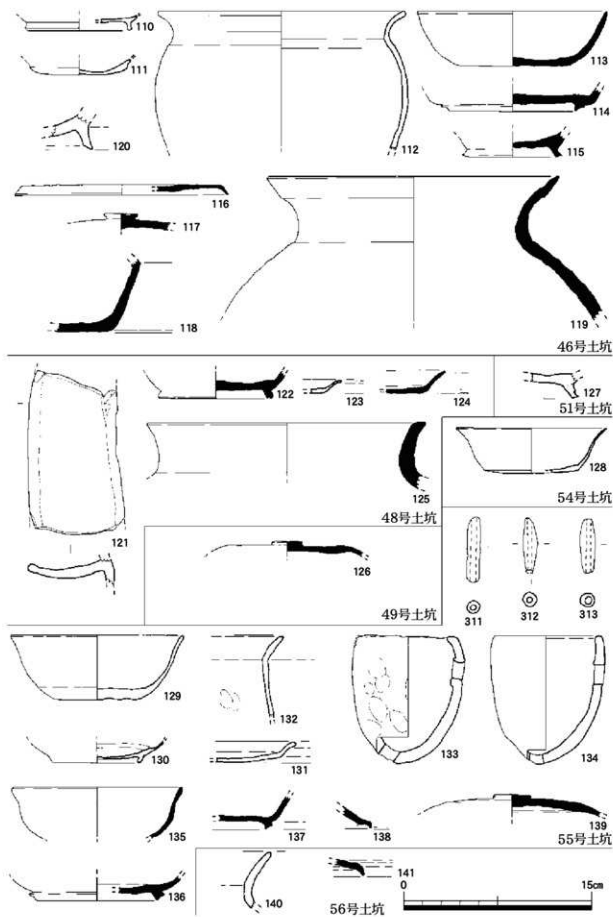
第27图 土坑实测图9 (縮尺1/60)



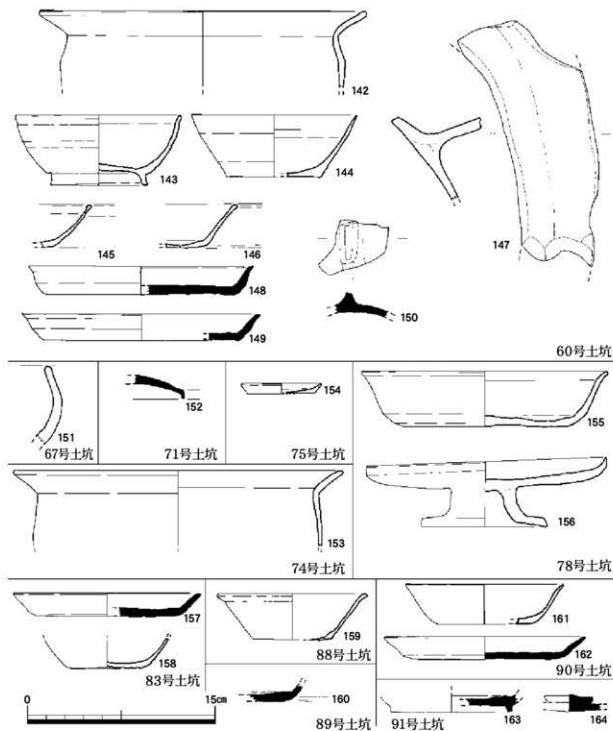
第28图 土坑出土遺物実測図1 (縮尺1/3)



第29图 土坑出土遺物実測図2 (縮尺1/3)



第30图 土坑出土遺物実測図3 (縮尺1/3)



第31図 土坑出土遺物実測図4 (縮尺1/3)

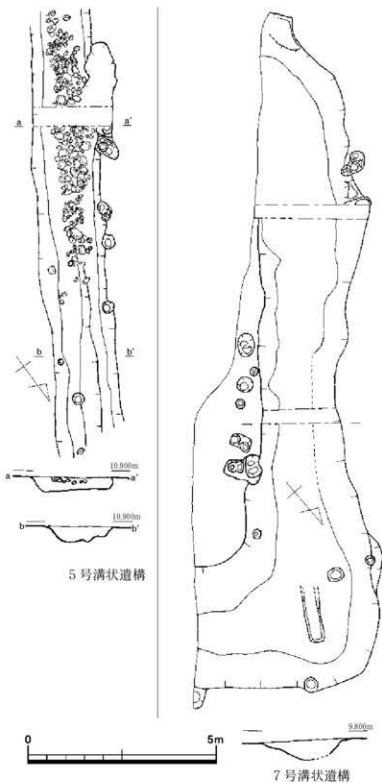
7 溝状遺構

溝状遺構も土坑と同様に調査区の全域に分布し、18条に遺構番号を付した。なお、各遺構の詳細についての記述は本書の紙数の関係で省略したが、代表的な遺構の図面(第32図)と一覧表(第2表)並びに出土遺物の図面(第33図・第34図)と観察表(第3表・第4表)を掲載した。

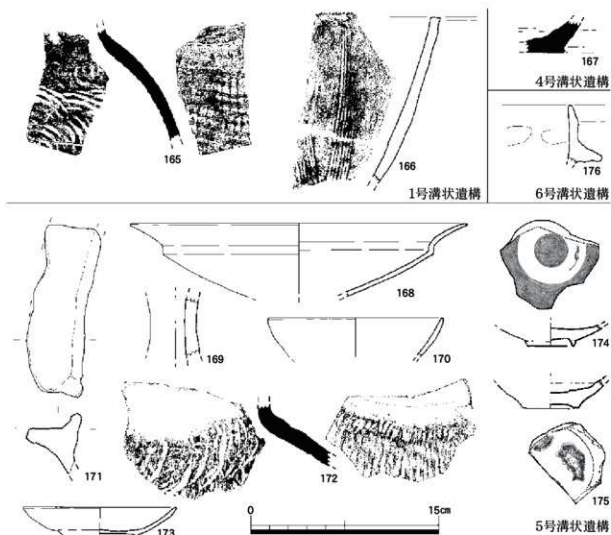
溝状遺構は途中で切れたり、調査区外までのびているため全容が把握しにくいものが多い。これらのうち北区で方形に区画された一連の遺構が確認された。調査区北部に1号溝状遺構と2号・3号溝状遺構が並行して北西-南東方向に走っているが、調査区西部では1号溝状遺構が5号溝状遺構につながり、2号溝状遺構は4号溝状遺構につながるものと考えられる。これらの二重の溝状遺構は重要な施設を方形に圍繞する区画溝である。

5号溝状遺構（第32図）の北西辺中央部のI10・I11グリッド付近では埋土中から大量の円礫が出土している。この部分では遺構は幅1.8m・深さ0.4m前後で、断面形は底面が平坦な逆台形を呈する。検出した円礫は大きさが10cm～30cm程度で、溝中央部の床面から15cm程度浮いた状態で、帯状に出土している。

7号溝状遺構（第32図）は北西辺と北東辺の一部を発掘したが、他の部分は調査区外となった。全体としては方形にめぐる遺構と考えられる。遺構の規模は広い部分で幅が3.3m、深さが0.6m前後である。北東隅の屈折する部分では、床面からやや浮いて廃棄されたような状態で蛸壺が大量に出土している（図版9-(3)(4)参照）。



第32図 溝状遺構実測図（縮尺1/100）



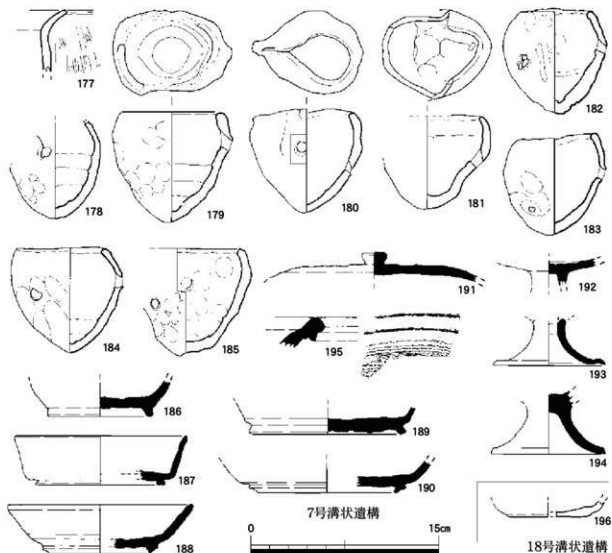
第33図 溝状遺構出土遺物実測図1 (縮尺1/3)

第2表 溝状遺構一覧表

単位:m

遺構番号	グリッド名	平面形	長さ	幅	深さ	切り合い
						出土遺物
1	E2~C6	直線	(38)	1.96	0.52	5号溝と一連か?
						土師器・須恵器(壺)・瓦質土器(椀鉢)
2	D4~C6	北西部屈曲	(26)	1.74	0.14	3号・4号溝と一連、70号土坑と切り合う
						土師器
3	E2~D3	直線	(12)	0.85	0.20	2号・4号溝と一連
4	D7~E8	直線	(32)	1.20	0.12	2号・3号溝と一連
						須恵器・緑釉陶器・土鐘
5	F9~P10	矩形	(138)	3.58	0.13	1号溝と一連か?67号土坑・18号溝と切り合う
						土師器(胡壺)・須恵器・瓦器(埴・皿)・陶器
6	K15	矩形?	(3.9)	1.00	0.13	44号土坑と切り合う
						土師器(鍋)
7	J4~K5	矩形	(12.5)	3.70	0.66	177~195
8	S12~U13	直線	(19)	1.90	0.58	土壘と切り合う?
						なし
9	F3	直線	(4.8)	0.86	0.10	
						なし

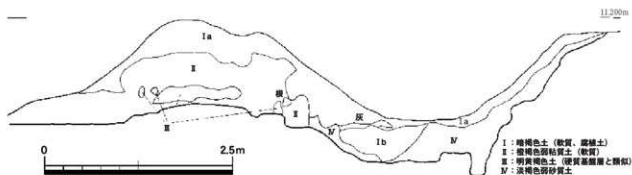
遺構番号	グリッド名	平面形	出土遺物			切り合い 遺物番号
			長さ	幅	深さ	
10	F10~G10	直線	(4.8)	1.20	0.17	5号溝に直交
	なし					
11	H6~J9	直線	(40)	3.80	0.47	12号溝に直交。18号・36号建物跡と切り合う
	なし					
12	J6~I7	直線	(17)	3.60	0.35	11号・13号溝に直交
	なし					
13	I6~J7	直線	(11.75)	不明	0.21	12号溝に直交。30号建物跡と切り合う
14	R10~S11	直線	(11.8)	0.65	不明	
15	M12	直線	3.58	0.64	0.30	
	土師器					
16	M12	矩形?	3.34	1.30	0.30	
	土師器・須恵器					
17	M12-N12		7.26	1.00	0.26	65号土坑と切り合う
	なし					
18	K13	弧状?	11.00	(6.40)	0.30	5号溝と切り合う
	土師器(坏)・須恵器					196



第34図 溝状遺構出土遺物実測図2 (縮尺1/3)

8 土塁

土塁は調査開始時点で南区の中央部に現況保存されていた。南区は西半が東半に比べて約1mほど高くなっていたが、土塁はその段差に沿って北東-南西方向にのびていた(付図参照)。確認された遺構の規模は全長58.6m・最大幅5.8mで、高さは東側の遺構検出面から1.25m前後をはかる。土塁の西側と一段高い南区西半の間は溝状を呈するが、土層断面(第35図)の観察の結果、土塁の構築時に必要な土をこの部分から採土したものと考えられる。主軸の方位はN-26°-Eである。

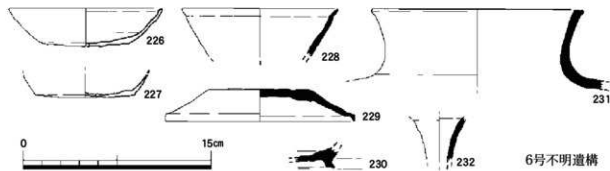


第35図 土塁土層断面実測図(縮尺1/50)

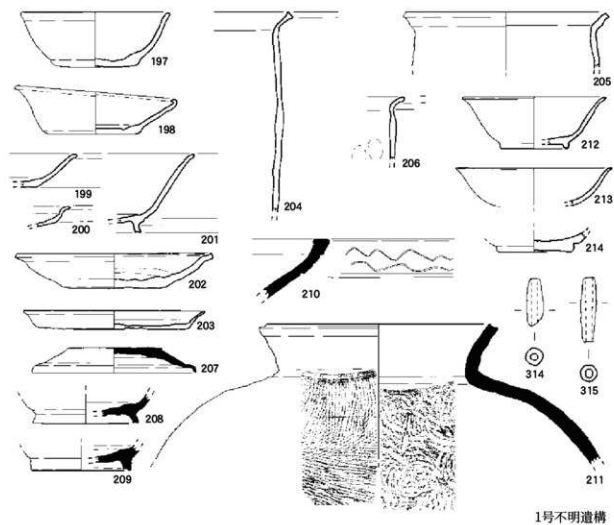
9 その他の遺構

その他の遺構としては不明遺構やピット等がある。

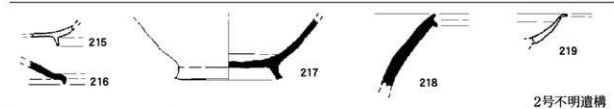
不明遺構は平面形が不整形で、用途が不明の土坑であり、調査時の遺構番号を流用した。ただし、7号不明遺構は欠番としている。今回個別遺構の実測図は掲載しておらず、出土遺物のみピットと合わせて掲載している(第36図~第39図)。



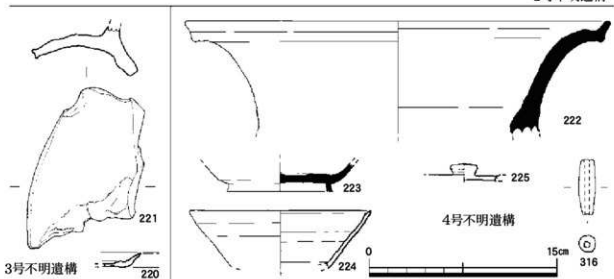
第36図 不明遺構出土遺物実測図1(縮尺1/3)



1号不明遺構



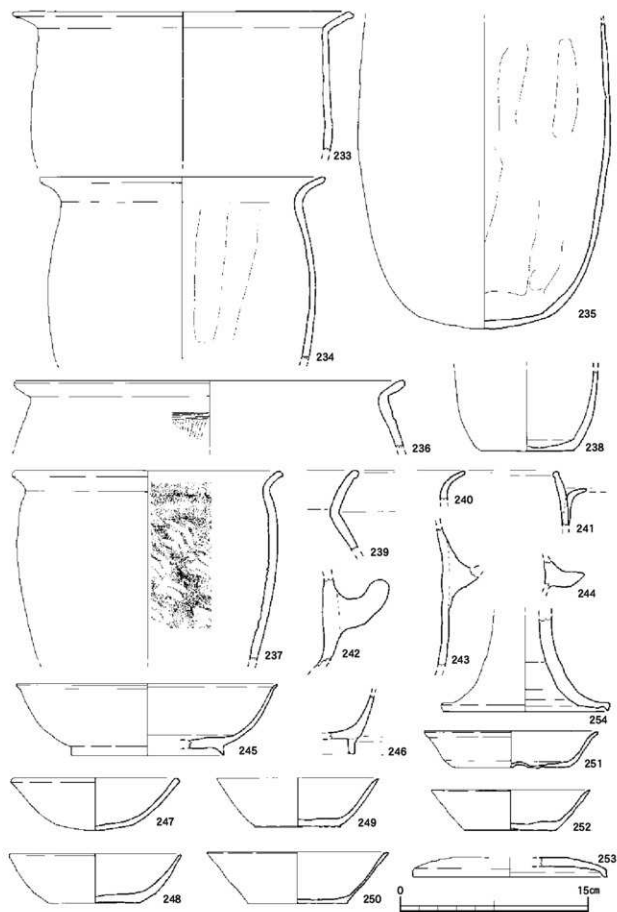
2号不明遺構



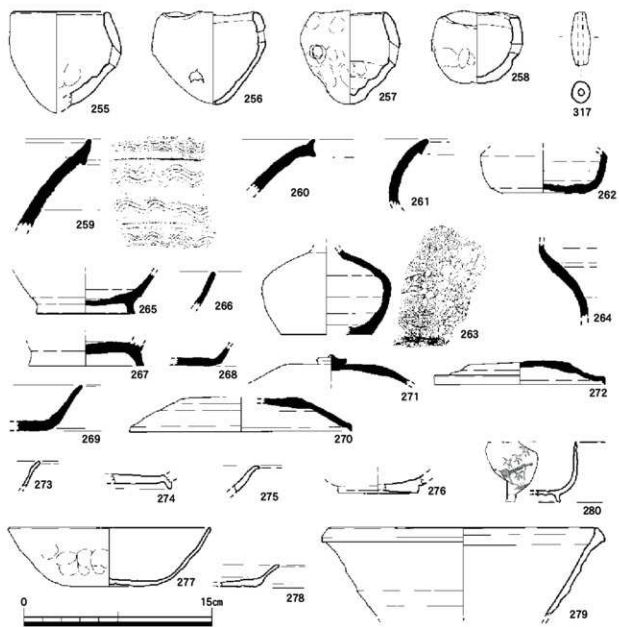
4号不明遺構

3号不明遺構

第37图 不明遺構出土遺物実測図2 (縮尺1/3)



第38図 ビット等出土遺物実測図1 (縮尺1/3)



第39図 ビット等出土遺物実測図2 (縮尺1/3)

第3表 出土土器観察表

出土遺構	押印 番号	器種 (保存状況)	注量 (cm)		色調			色調・胎土・焼成		成形・調整・技法		備考
			①器高 ②口径 ③底径 ④その他		色調	外・外面	内・内面	胎土	焼成	外・外面	内・内面	
1号住居跡	1	土師器-壺 口縁-体部上位	①(4.7) ②(17.7)		外・明赤褐色 内・にじみ黄褐色			2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/ナテ		
1号住居跡	2	土師器-壺 口縁-体部上位	①(6.3) ②(27.9)		外・黄褐色 内・黄褐色			2m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/不明		
1号住居跡	3	須恵器-坏 口縁-底部	①(4.2) ②15.6 ③9.1		外・灰黄色 内・灰黄色			3m以下の黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラズリ 内・ヨコナテ		
1号住居跡	4	須恵器-坏 口縁-底部	①(2.7) ②(13.6) ③(9.6)		外・灰オリーブ色 内・灰色			1m以下の石英・角閃石 少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ/ヨコナテ		
1号住居跡	5	須恵器-坏 底部	①(2.2) ③(11.0)		外・灰色 内・灰黄色			1m以下の長石・角閃石 少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
1号住居跡	6	須恵器-蓋 体部上位-口縁	①(2.8) ②(16.6)		外・灰色 内・黄灰色			1m以下の石英微量	良好	外・ヘラ切り/ヨコナテ 内・ヨコナテ		
1号住居跡	7	須恵器-蓋 ほぼ完形	①(2.8) ②(15.6)		外・黄灰色 内・灰白色			2m以下の石英・長石少 量	良好	外・不明 内・不明		
1号住居跡	8	須恵器-蓋 体部上位	①(1.5)		外・灰白色 内・灰白色			2m以下の石英・黒色砂 粒中量	良好	外・不明 内・不明		
1号建物跡	9	土師器-坏? 底部	①(2.4)		外・褐色 内・褐色			1m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
4号建物跡	10	土師器-甕? 口縁部	①(1.6)		外・褐色 内・褐色			1m以下の石英・雲母・ 褐色砂粒少量	良好	外・ナテ 内・ナテ		
4号建物跡	11	土師器-甕? 底部	①(1.1)		外・褐色 内・褐色			1m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒中量	良好	外・不明 内・ヨコナテ		
6号建物跡	12	土師器-坏 口縁-底部	①(3.3)		外・褐色 内・褐色			2m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
6号建物跡	13	土師器-甕 口縁-底部	①(1.9)		外・明赤褐色 内・明赤褐色			1m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナテ/不明 内・ヨコナテ		
6号建物跡	14	須恵器-蓋 口縁部	①(1.4)		外・灰白色 内・灰白色			1m以下の長石・白色砂 粒少量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
7号建物跡	15	土師器-甕? 口縁-体部中位	①(3.9)		外・明褐色 内・明褐色			1m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
7号建物跡	16	土師器-甕 体部下位-底部	①(4.6)		外・褐色 内・褐色			1m以下の石英・長石・ 角閃石・褐色砂粒中量	良好	外・指ササエ 内・ヨコナテ		
9号建物跡	17	土師器-甕? 底部	①(1.5)		外・灰褐色 内・灰褐色			1m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
9号建物跡	18	土師器-器種不明 体部?	①(3.3)		外・にじみ褐色 内・にじみ褐色			2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・不明 内・タケ目		
10号建物跡	19	土師器-坏? 体部下位-底部	①(2.0)		外・褐色 内・褐色			2m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
10号建物跡	20	土師器-坏 体部下位-底部	①(1.8)		外・明赤褐色 内・明赤褐色			2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り? 内・ヨコナテ		
10号建物跡	21	土師器-甕 口縁-底部	①(2.1)		外・褐色 内・褐色			2m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
10号建物跡	22	須恵器-蓋 口縁部	①(2.1)		外・灰白色 内・灰白色			2m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
10号建物跡	23	須恵器-壺? 口縁部	①(3.7)		外・灰色 内・黒色			1m以下の石英・白色砂 粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
13号建物跡	24	須恵器-蓋 口縁部	①(1.7)		外・灰白色 内・灰白色			1m以下の石英・黒色砂 粒・白色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
14号建物跡	25	土師器-甕? 口縁部	①(2.4)		外・褐色 内・褐色			3m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
14号建物跡	26	土師器-坏 底部	①(1.6)		外・褐色 内・褐色			2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ?		
14号建物跡	27	土師器-坏? 底部	①(1.2)		外・褐色 内・褐色			1m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ 内・不明		
16号建物跡	28	須恵器-壺? 体部上位	①(4.0)		外・暗赤褐色 内・灰色			1m以下の石英・長石・ 黒色砂粒中量	良好	外・ナテ 内・ヨコナテ		
19号建物跡	29	須恵器-坏 口縁部	①(2.5)		外・青灰色 内・明青灰色			1m以下の雲母・黒色砂 粒・白色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
20号建物跡	30	土師器-器種不明 底部	①(1.2)		外・明赤褐色 内・明赤褐色			3m以下の石英・長石・ 雲母・黒色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
20号建物跡	31	土師器-鉢? 口縁-体部上位	①(4.0)		外・褐色 内・褐色			1m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/指ササエ		
20号建物跡	32	須恵器-蓋 口縁部	①(1.1)		外・暗青灰色 内・青灰色			1m以下の黒色砂粒・ 白色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
20号建物跡	33	須恵器-蓋 口縁部	①(1.1)		外・青灰色 内・青灰色			1m以下の黒色砂粒・ 白色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
22号建物跡	34	土師器-蓋 天井部-口縁部	①(2.3) ②(12.6)		外・明赤褐色 内・暗褐色			5m以下の石英・黒色砂 粒・褐色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ 内・不明		
25号建物跡	35	土師器-壺? 口縁部	①(2.8)		外・褐色 内・褐色			4m以下の石英・長石・ 角閃石・褐色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		

出土遺構	押収番号	遺構 (保存状況)	法量 (m) ①高さ ②口径 ③底径 ④その他	色調・胎土・焼成			成形・調整・技法			備考
				色調 外・外面 内・内面	胎土	焼成	外・外面	内・内面		
25号建物跡	36	須恵器・蓋 口縁部	①(1.7)	外・灰色 内・灰色	1mm以下の石英・長石・ 白色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
27号建物跡	37	土師器・碗? 口縁部	①(1.7)	外・褐色 内・褐色	1mm以下の石英・角閃石・ 白色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
31号建物跡	38	須恵器?杯? 口縁部	①(2.3)	外・浅黄褐色 内・浅黄褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・褐色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・不明			
32号建物跡	39	土師器・碗? 口縁部	①(2.3)	外・褐色 内・褐色	1mm以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・ナテ 内・ナテ			
35号建物跡	40	土師器・碗? 口縁～体部中位	①(2.5)	外・褐色 内・褐色	1mm以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・ナテ? 内・ナテ?			
35号建物跡	41	須恵器・蓋 口縁部	①(1.5)	外・灰黄色 内・灰黄色	1mm以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒微量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
35号建物跡	42	土師器・皿 口縁～底部	①(1.4) ②(16.8) ③(8.0)	外・明赤褐色 内・褐色	2mm以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒微量	良好	外・ナテ? 内・ナテ?			
36号建物跡	43	土師器・杯 底部	①(1.8)	外・褐色 内・褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・不明 内・不明			
36号建物跡	44	土師器・壺? 口縁部	①(2.3)	外・褐色 内・褐色	3mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ナテ 内・ナテ			
37号建物跡	45	土師器・高杯 脚部下位	①(3.1)	外・褐色 内・褐色	1mm以下の石英・長石・ 雲母中量	良好	外・ナテ 内・ナテ			
37号建物跡	46	須恵器・壺? 口縁部	①(2.6) ②(14.6)	外・黒色 内・黒褐色	1mm以下の長石・白色砂 粒微量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
37号建物跡	47	須恵器・壺 口縁部	①(3.5) ②(18.2)	外・灰色 内・黄灰色	1mm以下の長石・黒色砂 粒少量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
4号柱穴	48	土師器・杯? 口縁部	①(2.6)	外・褐色 内・褐色	1mm以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
1号中世墓	49	土師器・皿 口縁～底部	①1.0 ②(7.2) ③(6.0)	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	1mm以下の石英・角閃石 中量	良好	外・ヨコナテ/回転系切り 内・ヨコナテ			
1号中世墓	50	土師器・皿 ほぼ完形	①1.2 ②(7.0) ③(5.2)	外・浅黄褐色 内・浅黄褐色	2mm以下の長石・角閃石・ 雲母少量	良好	外・ヨコナテ/回転系切り 内・ヨコナテ			
1号中世墓	51	土師器・皿 ほぼ完形	①1.0 ②(6.8) ③(4.7)	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	2mm以下の石英・角閃石 少量	良好	外・ヨコナテ/回転系切り 内・ヨコナテ			
1号中世墓	52	土師器・皿 ほぼ完形	①1.4 ②7.4 ③6.0	外・浅黄褐色 内・浅黄褐色	2mm以下の石英・角閃石・ 雲母微量	良好	外・ヨコナテ/不明 内・ヨコナテ			
欠番	53									
1号井戸	54	須恵器・瓶 体部下位～底部	①(2.6) ③(8.5)	外・黄灰色 内・黄灰色	1mm以下の石英・角閃石 少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ			
1号井戸	55	須恵器・壺 口縁～胴部	①(7.8)	外・黄灰色 内・暗黄褐色	2mm以下の石英・角閃石 中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		表注文	
1号井戸	56	土師器・甕鉢 口縁～体部上位	①(6.5)	外・にぶい褐色 内・にぶい褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・黒色砂粒中量	良好	外・ヘラズリ 内・ナテ			
1号井戸	57	瓦器・鉢 口縁～体部中位	①(5.9)	外・黒褐色 内・灰色	1mm以下の石英・角閃石 少量	良好	外・ヨコナテ/ケズリ? 内・ヨコナテ			
1号井戸	58	土師器・甕鉢 口縁～体部中位	①(12.3)	外・浅黄褐色 内・にぶい黄褐色	1mm以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/ケズリ 内・ナテ?			
2号井戸	59	陶器・皿? 口縁～体部中位	①(3.8)	外・灰白色 内・灰白色	2mm以下の長石・黒色砂 粒微量	良好	外・ヨコナテ? 内・ヨコナテ?		全面施釉	
1号土坑	60	土師器・碗 口縁～体部中位	①(3.0) ②(13.0)	外・灰黄色 内・灰黄色	1mm以下の黒色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
2号土坑	61	土師器・高杯 杯部下位	①(1.4)	外・褐色 内・褐色	3mm以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヘラズリ 内・不明			
2号土坑	62	須恵器・不明 口縁～体部中位	①(4.3) ②(18.0) ④体部最大径(19.6)	外・灰色 内・黄灰色	1mm以下の黒色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
2号土坑	63	土師器・壺 口縁～体部上位	①(5.8) ②(18.4)	外・明赤褐色 内・明赤褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/ヨコナテ			
2号土坑	64	土師器・壺 口縁～体部上位	①(10.0) ②(23.6)	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	3mm以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/ヘラズリ			
4号土坑	65	土師器・壺? 口縁～体部上位	①(4.2) ②15.9	外・黄灰色 内・にぶい黄褐色	2mm以下の石英・角閃石 中量	良好	外・不明 内・不明			
7号土坑	66	土師器・杯 口縁～底部	①3.0 ②(11.1) ③(6.1)	外・黄褐色 内・褐色	1mm以下の角閃石・褐色 砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/糸切り 内・ヨコナテ			
7号土坑	67	須恵器・蓋 体部下位～口縁	①(1.3) ②(15.6)	外・灰色 内・灰色	1mm以下の石英・角閃石・ 雲母微量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			
10号土坑	68	土師器・壺 口縁～体部中位	①(12.7) ②(22.5) ④体部最大径(21.9)	外・明赤褐色 内・にぶい黄褐色	1mm以下の長石・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/ナテ			
10号土坑	69	土師器・壺 口縁～体部中位	①(14.3) ②(21.2) ④体部最大径(18.0)	外・褐色 内・褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ナテ/ナテ 内・ナテ/ナテ			
10号土坑	70	土師器・壺 体部中位～底部	①(16.5) ④体部最大径23.4	外・赤褐色 内・赤褐色	5mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ハヅ目・タタキ目 内・タタキ目			

出土遺構	押収番号	遺構 (保存状況)	法量 (m) ①高さ ②口径 ③底径 ④その他	色調・胎土・焼成			成形・調整・技法		備考
				色調 外・外面 内・内面	胎土	焼成	外・外面 内・内面		
10号土坑	71	土師器・坏 完形	①2.7 ②7.6 ③6.4	外・明黄褐色 内・にぶい黄褐色	1m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ/ヨコナテ		
10号土坑	72	土師器・坏 完形	①3.3 ②9.1 ③5.8	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母微量	良好	外・ヨコナテ/板目良 内・角閃石・ヨコナテ		
10号土坑	73	土師器・坏 口縁～底部	①4.9 ②(12.5) ③(10.2)	外・褐色 内・褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ/糸切り 内・ヨコナテ/ヨコナテ		
10号土坑	74	土師器・坏 体部下位～底部	①(2.7) ③11.4	外・赤褐色 内・褐色	1m以下の角閃石少量	良好	外・ヘラミガキ/ヘラ切り 内・ヘラミガキ		
10号土坑	75	土師器・積重 完形	①7.0 ②7.5 ④体部最大径8.2	外・にぶい黄褐色 内・褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母少量	良好	外・指オサエ 内・指オサエ		
10号土坑	76	須恵器・坏 口縁～底部	①(3.2) ③(9.8)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の石英・黒色砂 粒中量	良好	外・ヨコナテ/不明 内・ヨコナテ		
10号土坑	77	須恵器・高杯? 脚部上位	①(2.0)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の黒色砂粒少量	やや 不良	外・不明 内・不明		
11号土坑	78	土師器・坏 体部下位～底部	①(1.7) ③(6.0)	外・褐色 内・褐色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
11号土坑	79	土師器・坏 体部下位～底部	①(1.7) ③(8.2)	外・褐色 内・褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・不問/ヘラ切り 内・不明		
11号土坑	80	土師器・甕? 底部	①(1.6)	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・長石・ 雲母少量	良好	外・ヘラミガキ/ヘラ切り 内・ヘラミガキ?		
11号土坑	81	土師器・甕 口縁～体部上位	①(9.0) ②(26.5)	外・褐色 内・褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ナデ/ナデ 内・ナデ/ナデ		
11号土坑	82	須恵器・蓋 体部中位～口縁	①(2.5)	外・にぶい褐色 内・灰褐色	1m以下の石英・黒色砂 粒・白色砂粒少量	良好	外・ヘラ切り/ヨコナテ 内・ヨコナテ		
11号土坑	83	須恵器・蓋 体部下位～口縁	①(2.4)	外・黄褐色 内・暗灰黄色	1m以下の石英・黒色砂 粒・白色砂粒微量	良好	外・ヘラクスリ/ヨコナテ 内・ヨコナテ		
11号土坑	84	須恵器・蓋 体部中位～口縁	①(2.0)	外・暗灰黄色 内・灰オリーブ色	1m以下の長石・雲母・ 黒色砂粒中量	良好	外・ヘラクスリ/ヨコナテ 内・ヨコナテ?		
11号土坑	85	土師器・甕? 底部	①(1.3)	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・角閃石・ 雲母少量	良好	外・ヨコナテ 内・不明		
11号土坑	86	須恵器・重 脚部～体部中位	①(3.3) ④体部最大径8.4	外・灰色 内・灰色	6m以下の角閃石・黒色 砂粒少量	良好	外・不明 内・ヨコナテ		
11号土坑	87	緑釉陶器・甕? 口縁部	①(2.8)	外・明灰緑色 内・明灰緑色		良好	外・不明 内・不明	全面施釉	
11号土坑	88	緑釉陶器・皿 口縁～底部	①2.4 ②(13.5) ③(6.3)	外・明灰緑色 内・明灰緑色	1m以下の石英・黒色砂 粒微量	良好	外・不明 内・不明	全面施釉	
11号土坑	89	緑釉陶器・瓶 体部中位	①(9.8)	外・明緑褐色 内・灰黄褐色	1m以下の石英・長石・ 黒色砂粒中量	良好	外・ヘラクスリ/ 内・回転ナデ	外周施釉	
13号土坑	90	土師器・坏 口縁～底部	①3.0 ②(13.2) ③(8.0)	外・明黄褐色 内・明黄褐色	2m以下の長石・角閃石・ 褐色砂粒微量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
14号土坑	91	須恵器・甕 口縁～底部	①4.7 ②(11.6) ③(6.8)	外・灰色 内・灰色	3m以下の長石・黒色砂 粒少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ/ヨコナテ		
14号土坑	92	土師器・甕? 底部	①(1.4) ③(7.6)	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・褐色砂 粒・黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/不明 内・ヨコナテ		
14号土坑	93	土師器?甕 口縁～体部上位	①(5.4) ②(21.0)	外・褐色 内・にぶい黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・不明 内・不明		
16号土坑	94	土師器・皿 口縁～底部	①1.4	外・褐色 内・褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
16号土坑	95	須恵器・皿 底部	①(1.0)	外・灰色 内・灰色	2m以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
16号土坑	96	土師器・甕 口縁～体部中位	①(8.5) ②(17.0)	外・明黄褐色 内・明黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/タテナデ		
19号土坑	97	須恵器・甕? 口縁～体部上位	①(5.5) ②(20.0)	外・灰色 内・灰色	2m以下の石英・長石・ 黒色砂粒少量	良好	外・不明 内・不明		
22号土坑	98	須恵器・坏 底部	①(1.0)	外・黒褐色 内・にぶい黄褐色	2m以下の雲母・黒色砂 粒中量	良好	外・不明 内・不明		
23号土坑	99	須恵器・坏? 口縁～体部上位	①(4.4)	外・灰オリーブ色 内・灰黄色	2m以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒微量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
28号土坑	100	須恵器・坏 体部下位～底部	①(2.7) ③(5.7)	外・灰白色 内・灰白色	2m以下の石英・長石・ 角閃石微量	やや 不良	外・ヨコナテ/ナデ 内・ナデ		
28号土坑	101	土師器・皿 口縁～底部	①1.4	外・黄褐色 内・褐色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外・不明 内・不明		
31号土坑	102	土師器・坏 口縁～体部下位	①3.5	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ		
32号土坑	103	土師器・坏 口縁～底部	①3.3 ②(12.6) ③(6.6)	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/糸切り 内・ヨコナテ		
32号土坑	104	土師器・蓋 体部下位～口縁	①(2.3)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の角閃石・褐色 砂粒微量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ		
32号土坑	105	緑釉陶器・甕? 口縁部	①(1.4)	外・灰白色 内・明緑色		良好	外・不明 内・不明	全面施釉	

出土遺構	押収番号	遺構 (保存状況)	法量 (m)			色調・胎土・焼成			成形・調整・技法		備考
			①器高 ②口径 ③底径 ④その他	色調	胎土	焼成	成形・調整・技法				
36号土坑	106	土師器・坏 体部下位～底部	①(2.4) ③9.2	外:灰白色 内:灰白色	2m以下の白色砂粒中量	良好	外:ナデ/ハラ切り 内:ナデ				
40号土坑	107	土師器・蓋 体部中位～口縁	①(2.3)	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外:不明 内:不明				
42号土坑	108	土師器・瓶 底部	①(1.3) ③(8.2)	外:褐色 内:褐色	1m以下の長石・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外:ヨコナデ/不明 内:ヨコナデ				
42号土坑	109	土師器・瓶 取手部	①(4.0)	外:褐色 内:褐色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒中量	良好	外:ナデ 内:不明				
46号土坑	110	土師器・坏? 底部	①(1.2)	外:褐色 内:明黄褐色	1m以下の石英・角閃石・ 雲母微量	良好	外:不明 内:不明				
46号土坑	111	土師器・坏? 底部	①(1.3) ③7.6	外:黄褐色 内:褐色	1m以下の長石・角閃石・ 雲母少量	良好	外:ハラ切り 内:ヨコナデ				
46号土坑	112	土師器・甕 口縁～体部中位	①(11.0) ②(19.7) ④体部最大径(20.1)	外:褐色 内:赤褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外:ナデ/ナデ 内:不明/ナデ				
46号土坑	113	須恵器・坏 口縁～底部	①4.3 ②15.2 ③8.4	外:灰白色 内:灰白色	2m以下の石英・長石・ 角閃石微量	良好	外:ヨコナデ/ハラケズリ 内:ヨコナデ/ヨコナデ				
46号土坑	114	須恵器・坏 底部	①(1.8) ③(10.0)	外:灰白色 内:灰白色	1m以下の石英・長石・ 黒色砂粒少量	良好	外:ヨコナデ/ハラケズリ 内:ヨコナデ				
46号土坑	115	須恵器・瓶 底部	①(2.0) ③7.9	外:灰色 内:灰色	1m以下の雲母・黒色砂粒・ 白色砂粒少量	良好	外:ヨコナデ/ハラ切り 内:ヨコナデ				
46号土坑	116	須恵器・蓋? 体部上位～口縁	①0.8 ②(17.0)	外:灰色 内:黄灰色	2m以下の黒色砂粒中量	良好	外:ハラ切り/ヨコナデ 内:ヨコナデ/ヨコナデ				
46号土坑	117	須恵器・蓋 天井部	①(1.3)	外:灰黄色 内:灰白色	1m以下の石英・黒色砂粒 中量	良好	外:ハラケズリ 内:ナデ				
46号土坑	118	須恵器・瓶? 体部中位～底部	①(5.8)	外:灰色 内:灰色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外:ヨコナデ/不明 内:ヨコナデ				
46号土坑	119	須恵器・甕 口縁～体部上位	①(10.6) ②(23.2)	外:灰白色 内:灰白色	1m以下の長石微量	良好	外:ヨコナデ/ヨコナデ 内:ヨコナデ/ヨコナデ				
46号土坑	120	灰釉陶器? 底部	①(2.9)	外:浅黄色 内:暗黄褐色	1m以下の石英・黒色砂粒・ 白色砂粒少量	良好	外:ヨコナデ 内:不明			外面施釉	
48号土坑	121	土師器・カマド 体部下位	①(12.9)	外:にじい黄褐色 内:黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外:ナデ 内:ナデ				
48号土坑	122	須恵器・坏 底部	①(2.0) ③(9.2)	外:灰色 内:灰色	1m以下の石英・角閃石・ 雲母少量	良好	外:ヨコナデ/ハラケズリ 内:ヨコナデ				
48号土坑	123	土師器・甕 口縁～底部	①1.1	外:褐色 内:褐色	2m以下の長石・角閃石・ 雲母少量	良好	外:ヨコナデ/不明 内:ヨコナデ				
48号土坑	124	須恵器・甕 口縁～底部	①1.8	外:灰色 内:灰白色	2m以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒少量	良好	外:不明/不明 内:不明				
48号土坑	125	須恵器・甕? 口縁部	①(5.4) ②(22.1)	外:オリーブ黒色 内:オリーブ黒色	2m以下の石英・長石・ 黒色砂粒少量	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
49号土坑	126	須恵器・蓋 天井部～体部	①(1.3)	外:黄灰色 内:黄灰色	1m以下の長石・黒色砂粒・ 白色砂粒中量	良好	外:ハラケズリ/ヨコナデ 内:ヨコナデ				
51号土坑	127	土師器・坏 底部	①(2.0)	外:明黄褐色 内:明黄褐色	1m以下の角閃石・雲母 中量	良好	外:不明 内:不明				
54号土坑	128	土師器・坏 口縁～体部	①3.5 ②(12.0) ③(7.6)	外:黄褐色 内:黄褐色	2m以下の石英・角閃石 中量	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
55号土坑	129	土師器・甕 口縁～底部	①5.1 ②(13.8) ③6.6	外:灰黄色 内:灰黄色	3m以下の角閃石・黒色 砂粒少量	良好	外:ヨコナデ/ハラ切り・板目 内:ヨコナデ/ヨコナデ				
55号土坑	130	土師器・甕 体部下位～底部	①(1.8) ③(7.0)	外:明赤褐色 内:褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母少量	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
55号土坑	131	土師器・甕 口縁～底部	①1.7	外:褐色 内:褐色	1m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母少量	良好	外:不明 内:不明				
55号土坑	132	土師器・甕 口縁～体部上位	①(6.5)	外:褐色 内:褐色	1m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外:不明/不明 内:ナデ/ヨコハケ				
55号土坑	133	土師器・精華 光形	①10.0 ②7.8	外:明黄褐色 内:明黄褐色	2m以下の石英・角閃石 中量	良好	外:指オサエ? 内:ナデ?				
55号土坑	134	土師器・精華 ほぼ光形	①12.0 ②(8.5) ④体部最大径(9.1)	外:黄褐色 内:黄褐色	2m以下の石英・角閃石・ 中量	良好	外:ナデ 内:ナデ				
55号土坑	135	須恵器・甕 口縁～体部中位	①(4.1) ②(13.6)	外:灰色 内:灰色	1m以下の黒色砂粒微量	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
55号土坑	136	須恵器・甕? 底部	①(2.0) ③(10.8)	外:灰白色 内:灰白色	2m以下の石英・長石・黒色 砂粒少量	良好	外:不明/ヨコナデ? 内:不明				
55号土坑	137	須恵器・坏 体部下位～底部	①(2.6)	外:灰白色 内:浅黄色	3m以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒少量	良好	外:ヨコナデ/ハラ切り? 内:ヨコナデ				
55号土坑	138	須恵器・甕 口縁部	①(1.8)	外:灰色 内:灰色	1m以下の石英・黒色砂粒 少量	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
55号土坑	139	須恵器・蓋 体部上位	①(1.8)	外:灰白色 内:灰白色	5m以下の長石・黒色砂粒 中量	良好	外:ハラケズリ・ナデ 内:ナデ				
56号土坑	140	土師器・甕? 口縁部	①(4.4)	外:赤褐色 内:赤褐色	2m以下の石英・角閃石 少量	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				

出土遺構	押収番号	遺構 (保存状況)	法量 (m)			色調・胎土・焼成			成形・調整・技法		備考
			①器高 ②口径 ③底径 ④その他	色調 外・外面 内・内面	胎土	焼成	外・外面 内・内面				
56号土坑	141	須恵器・蓋 口縁部	①(1.4)	外・灰色 内・灰色	1m以下の石英・黒色砂粒・白色砂粒少量	良好	外・ヘラケズリ/ヨコナテ 内・ヨコナテ				
60号土坑	142	土師器・壺 口縁～体部上位	①(6.0) ②(26.0)	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	2m以下の石英・長石・角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ナテ 内・ヨコナテ/タテナテ?				
60号土坑	143	土師器・甕 口縁～底部	①5.6 ②(13.2) ③7.8	外・褐色 内・褐色	2m以下の石英・長石・角閃石・雲母少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り? 内・ヨコナテ/ヨコナテ				
60号土坑	144	土師器?杯 口縁～底部	①4.9 ②(13.2) ③(7.6)	外・灰黄色 内・灰黄色	2m以下の石英・角閃石・黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ				
60号土坑	145	土師器・杯 口縁～底部	①3.4	外・にぶい黄褐色 内・明黄褐色	1m以下の石英・角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ				
60号土坑	146	土師器・杯 口縁～底部	①3.5	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・角閃石・雲母少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ				
60号土坑	147	土師器・カマド 体部中位	①(18.5)	外・褐色 内・明赤褐色	2m以下の石英・長石・角閃石・雲母中量	良好	外・ナテ? 内・ナテ?				
60号土坑	148	須恵器・皿 口縁～底部	①2.3 ②(18.0) ③(14.6)	外・灰色 内・灰黄色	1m以下の黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り・ナテ 内・ヨコナテ/ヨコナテ				
60号土坑	149	須恵器・皿 口縁～底部	①2.9 ②(19.0) ③(15.4)	外・灰色 内・灰色	1m以下の雲母・黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ				
60号土坑	150	須恵器・器種不明 体部?	①(4.4)	外・灰色 内・灰色	1m以下の長石・雲母・黒色砂粒中量	良好	外・ナテ 内・ヨコナテ				
67号土坑	151	弥生土器?鉢? 口縁～体部上位	①(6.3)	外・明赤褐色 内・にぶい黄褐色	1m以下の石英・角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ				
71号土坑	152	須恵器・蓋 体部下位～口縁部	①(2.0)	外・灰色 内・灰色	1m以下の石英・角閃石・黒色砂粒微量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ				
74号土坑	153	土師器・壺 口縁～体部上位	①(6.0) ②(26.0)	外・褐色 内・褐色	2m以下の長石・角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナテ/ヨコナテ 内・ヨコナテ/ナテ				
75号土坑	154	土師器・壺 口縁～底部	①1.8 ②(6.4) ③(5.4)	外・明黄褐色 内・明黄褐色	1m以下の石英・角閃石・褐色砂粒少量	良好	外・不明 内・不明				
78号土坑	155	土師器・杯 口縁～底部	①4.4 ②(19.5) ③13.0	外・黄褐色 内・黄褐色	2m以下の石英・長石・角閃石微量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ/ヨコナテ				
78号土坑	156	土師器・高環 ほぼ完形	①5.6 ②19.1 ③10.0	外・褐色 内・褐色	3m以下の石英・長石・角閃石・雲母少量	良好	外・不明/ヨコナテ 内・不明/ヨコナテ				
83号土坑	157	須恵器・皿 口縁～底部	①1.8 ②(14.8) ③(11.2)	外・灰オリーブ色 内・灰オリーブ色	2m以下の石英・長石・角閃石・黒色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ/ヘラケズリ 内・ヨコナテ/ヨコナテ				
83号土坑	158	土師器・杯 体部中位～底部	①(2.4) ③(5.9)	外・褐色 内・褐色	1m以下の長石・角閃石少量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ				
88号土坑	159	土師器・杯 口縁～底部	①3.6 ②(11.7) ③(6.3)	外・褐色 内・褐色	2m以下の長石・角閃石・褐色砂粒中量	良好	外・ヨコナテ/赤切り 内・ヨコナテ				
89号土坑	160	須恵器・杯? 底部	①(1.4)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の石英・雲母・褐色砂粒少量	良好	外・不明 内・不明				
90号土坑	161	土師器・杯 口縁～底部	①3.1 ②(12.5) ③(7.2)	外・黄褐色 内・黄褐色	2m以下の角閃石・褐色砂粒少量	良好	外・不明 内・不明				
90号土坑	162	須恵器・皿 口縁～底部	①1.8 ②(16.0) ③(11.4)	外・灰黄色 内・灰黄色	1m以下の石英・長石・角閃石少量	良好	外・ヨコナテ/不明 内・ヨコナテ/ヨコナテ				
91号土坑	163	須恵器・杯? 底部	①(1.4) ③(9.7)	外・灰白色 内・灰色	1m以下の黒色砂粒微量	良好	外・ヨコナテ/ヘラ切り 内・ヨコナテ				
91号土坑	164	須恵器・蓋 つまみ部	①(1.4)	外・灰色 内・灰色	1m以下の雲母・黒色砂粒・白色砂粒少量	良好	外・ヨコナテ 内・ナテ				
1号溝	165	須恵器・甕? 体部上位	①(9.7)	外・灰黄色 内・灰色	1m以下の石英・角閃石中量	良好	外・タタキ目 内・タタキ目				
1号溝	166	瓦葺土器・楕形 口縁～体部中位	①(13.1)	外・黄灰色 内・にぶい黄褐色	2m以下の石英・角閃石・雲母中量	良好	外・不明 内・不明				
4号溝	167	緑釉陶器・瓶? 底部	①(2.3)	外・明緑灰色 内・灰黄褐色	1m以下の石英・長石中量	良好	外・ヘラケズリ/不明 内・回転ナテ			外面施釉	
5号溝	168	弥生土器・高環 環部上半	①(5.7) ②(26.8)	外・明黄褐色 内・褐色	3m以下の石英・長石・角閃石・雲母微量	良好	外・ヘラミガキ? 内・不明				
5号溝	169	土師器・高環 脚部	①(5.6)	外・にぶい褐色 内・にぶい褐色	1m以下の石英・長石・褐色砂粒中量	良好	外・ナテ? 内・ナテ?				
5号溝	170	瓦葺・甕 口縁～体部上位	①(3.1) ②(7.0)	外・灰色 内・灰白色	1m以下の石英・黒色砂粒・白色砂粒中量	良好	外・不明 内・不明				
5号溝	171	土師器・カマド 体部下位	①(13.6)	外・褐色 内・褐色	3m以下の石英・長石・角閃石・雲母中量	良好	外・ナテ 内・ナテ				
5号溝	172	須恵器・壺 体部上位	①(4.2)	外・黄灰色 内・黄灰色	1m以下の長石・雲母少量	良好	外・ヨコナテ/タタキ目 内・ヨコナテ/タタキ目				
5号溝	173	瓦葺?皿 口縁～底部	①(2.3) ②(12.2) ③(5.9)	外・灰色 内・灰色	1m以下の石英・角閃石少量	良好	外・不明/不明 内・不明				
5号溝	174	陶器・甕 底部	①(1.4) ③3.6	外・黄褐色 内・黄褐色	1m以下の白色砂粒微量	良好	外・ヨコナテ 内・ヨコナテ			内面施釉	
5号溝	175	陶器・甕 底部	①(2.3) ③4.4	外・にぶい黄褐色 内・浅黄色		良好	外・ヘラケズリ? 内・ヘラケズリ?			全面施釉	

出土遺構	押収番号	遺構 (残存状況)	法量(m)			色調・胎土・焼成			成形・調整・技法			備考
			①器高 ②口径 ③底径 ④その他	色調 外・外面 内・内面	胎土	焼成	外・外面 内・内面					
6号溝	176	土師器・竈 口縁	①(4.7)	外・明黄褐色 内・明黄褐色	1m以下の長石・角閃石 中量	良好	外・指オサエ 内・指オサエ					
7号溝	177	土師器・壺 口縁～体部上位	①(4.9)	外・明赤褐色 内・明赤褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナデ/タテハケ 内・ヨコナデ					
7号溝	178	土師器・甕 体部上位～底部	①(7.6)	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・角閃石 中量	良好	外・ナデ・指オサエ 内・ナデ・指オサエ					
7号溝	179	土師器・甕 口縁～底部	①8.8 ②8.4 ④体部最大径9.5	外・褐色 内・褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・ナデ・指オサエ 内・ナデ・指オサエ					
7号溝	180	土師器・甕 外形	①8.2 ②7.9 ④体部最大径8.9	外・明赤褐色 内・にぶい黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・指オサエ 内・ナデ					
7号溝	181	土師器・甕 口縁～底部	①7.3	外・褐色 内・褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・指オサエ 内・ナデ					
7号溝	182	土師器・甕 外形	①8.3 ②5.7 ④体部最大径8.2	外・明黄褐色 内・褐色	1m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナデ・指オサエ 内・ヨコナデ					
7号溝	183	土師器・甕 外形	①8.0 ②6.2 ④体部最大径8.0	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	2m以下の長石・角閃石・ 雲母少量	良好	外・指オサエ 内・ナデ・指オサエ					
7号溝	184	土師器・甕 外形	①8.2 ②7.1	外・明黄褐色 内・明黄褐色	2m以下の石英・角閃石 中量	良好	外・ヨコナデ・指オサエ 内・ヨコナデ・指オサエ					
7号溝	185	土師器・甕 口縁～底部	①8.5 ②(8.6)	外・褐色 内・褐色	1m以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外・指オサエ 内・指オサエ					
7号溝	186	須恵器・壺? 底部	①(2.7) ③(8.0)	外・灰色 内・黄灰色	1m以下の角閃石・雲母・ 白色砂粒微量	良好	外・ヨコナデ/ヨコナデ 内・ヨコナデ/ヨコナデ					
7号溝	187	須恵器・坏 口縁～底部	①3.8 ②(13.6) ③(10.1)	外・黄灰色 内・黄灰色	1m以下の雲母・黒色砂 粒少量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り 内・ヨコナデ/ヨコナデ					
7号溝	188	須恵器・坏 口縁～底部	①3.8 ②(14.6) ③(8.0)	外・褐色 内・灰黄褐色	2m以下の長石・雲母・ 白色砂粒中量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り 内・ヨコナデ/ヨコナデ					
7号溝	189	須恵器・坏 底部	①(2.1) ③(12.5)	外・黄灰色 内・灰色	1m以下の長石・角閃石 少量	良好	外・ヘラクスリ/ヘラ切り 内・ヨコナデ					
7号溝	190	須恵器・坏 体部下位～底部	①(2.4) ③11.0	外・灰色 内・灰白色	1m以下の長石・黒色砂 粒少量	良好	外・ヨコナデ/ヨコナデ 内・ヨコナデ/ヨコナデ					
7号溝	191	須恵器?・蓋 天井～体部中位	①(2.2)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の石英・黒色砂 粒・褐色砂粒少量	良好	外・ヘラクスリ 内・ヨコナデ					
7号溝	192	須恵器・高坏 体部下位	①(2.1)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の長石・黒色砂 粒・褐色砂粒微量	良好	外・ヨコナデ 内・ヨコナデ					
7号溝	193	須恵器・高坏 脚部	①(3.6) ③(9.0)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外・ヨコナデ 内・ヨコナデ					
7号溝	194	須恵器・高坏 脚部	①(4.9) ③(9.2)	外・灰白色 内・灰白色	1m以下の雲母・黒色砂 粒中量	良好	外・ヨコナデ 内・ヨコナデ					
7号溝	195	須恵器・壺 口縁部	①(2.4)	外・黒褐色 内・黄灰色	1m以下の石英・黒色砂 粒・白色砂粒少量	良好	外・ヨコナデ 内・ヨコナデ					
18号溝	196	土師器・坏 底部	①(1.2)	外・褐色 内・黄褐色	1m以下の石英・黒色砂 粒微量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り 内・ヨコナデ					
1号不明	197	土師器・坏 半球形	①4.4 ②12.0 ③6.8	外・褐色 内・褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石微量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り 内・ヨコナデ					
1号不明	198	土師器・坏 口縁～底部	①3.8 ②(13.0) ③7.2	外・淡黄褐色 内・褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り 内・ヨコナデ					
1号不明	199	土師器・坏 口縁～底部	①2.7	外・褐色 内・褐色	2m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り 内・ヨコナデ					
1号不明	200	土師器・皿 口縁～底部	①(1.7)	外・にぶい赤褐色 内・にぶい赤褐色	1m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナデ/不明 内・ヨコナデ					
1号不明	201	土師器・埴 口縁～底部	①6.3	外・暗褐色 内・褐色	2m以下の石英・黒色砂 粒・褐色砂粒中量	良好	外・ヨコナデ/ヨコナデ 内・ヨコナデ					
1号不明	202	土師器・皿 口縁～底部	①2.8 ②(15.4) ③8.4	外・淡黄褐色 内・淡黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石微量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り? 内・ヨコナデ					
1号不明	203	土師器・皿 ほぼ球形	①1.5 ②14.4 ③12.0	外・黄褐色 内・黄褐色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外・不明/ヘラ切り 内・不明					
1号不明	204	土師器・壺 口縁～体部中位	①(15.8)	外・にぶい褐色 内・淡黄褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・不明 内・不明					
1号不明	205	土師器・壺 口縁～体部上位	①(4.5) ②(8.2)	外・にぶい褐色 内・にぶい黄褐色	2m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナデ/ヨコナデ 内・ヨコナデ/ヨコナデ					
1号不明	206	土師器・壺 口縁～体部上位	①(4.9)	外・褐色 内・褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナデ/指オサエ 内・ヨコナデ/指オサエ					
1号不明	207	須恵器・蓋 天井部～口縁部	①2.0 ②(13.0)	外・青灰色 内・暗青灰色	2m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヘラ切り/ヨコナデ 内・ヨコナデ					
1号不明	208	須恵器・坏 体部下位～底部	①(2.3) ③(8.4)	外・青灰色 内・青灰色	1m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外・ヨコナデ/ヘラ切り 内・ヨコナデ					
1号不明	209	須恵器・坏? 底部	①(2.0) ③(8.0)	外・緑灰色 内・青灰色	1m以下の石英・黒色砂 粒中量	良好	外・ヨコナデ/ヨコナデ 内・ヨコナデ					
1号不明	210	須恵器・器台? 口縁部?	①(4.6)	外・灰色 内・暗灰黄色	2m以下の長石・黒色砂 粒中量	良好	外・ヨコナデ 内・ヨコナデ				波状文	

出土遺構	押収番号	遺構 (残存状況)	法量 (m)			色調・胎土・焼成			成形・調整・技法		備考
			①器高 ②口径 ③底径 その他	色調 外・外面 内・内面	胎土	焼成	外・外面 内・内面				
1号不明	211	須恵器・甕 口縁～体部上位	①(10.7) ②(18.8)	外・灰色 内・灰色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母微量	良好	外・タケ目 内・タケ目				
1号不明	212	緑釉陶器・甕 口縁～底部	①(4.1) ②(11.4) ③(5.3)	外・明緑灰色 内・明緑灰色	1mm以下の石英・褐色砂 粒・黒色	良好	外・不明 内・不明	全面施釉			
1号不明	213	緑釉陶器?下 口縁～体部下位	①(3.0) ②(12.4)	外・暗灰黄色 内・暗灰黄色	1mm以下の石英・長石微 量	良好	外・ヨコナダ? 内・ヨコナダ?				
1号不明	214	緑釉陶器・甕? 底部	①(1.7) ③(6.0)	外・浅黄褐色 内・浅黄褐色	1mm以下の石英・長石・ 雲母中量	良好	外・不明 内・不明				
2号不明	215	土師器・甕 底部	①(1.7)	外・褐色 内・褐色	1mm以下の石英・褐色砂 粒・黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナダ/不明 内・不明				
2号不明	216	須恵器・蓋 口縁部	①(1.8)	外・黄灰色 内・黄灰色	1mm以下の石英・雲母・ 黒色砂粒中量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
2号不明	217	須恵器・瓶? 体部下位～底部	①(4.8) ③(6.6)	外・褐灰色 内・灰色	2mm以下の長石・黒色砂 粒微量	良好	外・ヨコナダ/ヘラ切り 内・ヨコナダ				
2号不明	218	須恵器・甕 口縁部	①(6.1)	外・黒色 内・オリーブ黒色	2mm以下の石英・長石多 量	良好	外・タテハケ 内・ヨコナダ				
2号不明	219	緑釉陶器・甕 口縁～体部下位	①(2.5)	外・黄灰色 内・暗赤褐色	2mm以下の長石・角閃石 微量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
3号不明	220	土師器・甕 口縁～底部	①(1.2)	外・褐色 内・褐色	2mm以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒中量	良好	外・ヨコナダ/不明 内・ヨコナダ				
3号不明	221	土師器・カマド 体部中位	①(12.9)	外・褐色 内・褐色	2mm以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒中量	良好	外・ナダ? 内・ナダ?				
4号不明	222	須恵器・甕? 口縁～頸部	①(8.9) ②(33.7)	外・灰色 内・灰色	1mm以下の石英・角閃石 微量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
4号不明	223	須恵器・坏 底部	①(2.3)	外・灰黄色 内・暗灰黄色	2mm以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナダ/ヘラ切り 内・ヨコナダ				
4号不明	224	須恵器・坏 口縁～体部下位	①(4.6) ②(15.4) ③(8.6)	外・青灰色 内・青灰色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
4号不明	225	土師器・蓋 天井部	①(1.5)	外・褐色 内・褐色	1mm以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナダ 内・ナダ				
6号不明	226	土師器・坏 口縁～底部	①(3.0) ②(12.2) ③(7.2)	外・褐色 内・にぶい褐色	1mm以下の石英・黒色砂 粒・褐色砂粒少量	良好	外・ヨコナダ/ヘラズリ 内・ヨコナダ				
6号不明	227	土師器・坏 底部	①(1.2) ③(7.9)	外・明黄褐色 内・黄褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナダ/ヘラ切り 内・ヨコナダ				
6号不明	228	須恵器・坏 口縁～体部中位	①(3.8)	外・灰白色 内・灰白色	3mm以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
6号不明	229	須恵器・蓋 天井部～口縁部	①(2.6) ②(15.0)	外・灰色 内・青灰色	1mm以下の石英・長石・ 黒色砂粒中量	良好	外・ヘラ切り/ヨコナダ 内・ヨコナダ				
6号不明	230	須恵器・坏 底部	①(1.7)	外・青灰色 内・灰色	1mm以下の石英・雲母・ 黒色砂粒少量	良好	外・ヨコナダ/ヘラ切り 内・ヨコナダ				
6号不明	231	須恵器・甕 口縁部	①(6.4) ②(16.8)	外・灰色 内・灰色	1mm以下の白色砂粒少量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
6号不明	232	須恵器・ハコツ? 頸部	①(3.6)	外・暗灰色 内・暗灰色	1mm以下の石英・長石・ 黒色砂粒中量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
F6-P2	233	土師器・甕 口縁～体部中位	①(11.0) ②(27.0) ④(体部最大径(23.9))	外・褐色 内・褐色	3mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・不明 内・不明/煎オサ?				
I6	234	土師器・甕 口縁～体部上位	①(14.5) ②(22.6) ④(体部最大径(21.2))	外・褐色 内・褐色	2mm以下の長石・角閃石・ 雲母中量	良好	外・不明/ナダ? 内・不明/ヘラズリ				
I6	235	土師器・甕 体部上位～底部	①(44.3) ④(体部最大径20.0)	外・褐色 内・褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ナダ/ナダ 内・ヘラズリ/ナダ				
M12-P1	236	土師器・甕 口縁～体部上位	①(5.3) ②(30.1)	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ナダ/ハケ目 内・ナダ/ナダ				
L14-P1	237	土師器・甕 口縁～体部中位	①(15.0) ②(21.4) ④(体部最大径(20.6))	外・褐色 内・にぶい褐色	3mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・タケ目/ナダ 内・タケ目/ナダ				
K9-P1	238	土師器・埴輪? 体部中位～底部	①(6.4) ③(7.3)	外・浅黄褐色 内・浅黄褐色	1mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・ナダ/ヘラズリ 内・ヘラズリ/ナダ				
G8	239	土師器・甕 口縁～体部上位	①(6.4)	外・にぶい黄褐色 内・にぶい黄褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ナダ 内・ナダ				
G6-P1	240	土師器・甕 口縁部	①(2.4)	外・褐色 内・にぶい褐色	1mm以下の石英・長石・ 角閃石微量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				
G6-P1	241	土師器・甕? 口縁～体部上位	①(4.3)	外・黒褐色 内・黒褐色	1mm以下の石英・角閃石 中量	良好	外・ナダ? 内・ナダ?				
M11	242	土師器・甕 取手部	①(7.0)	外・黄褐色 内・黄褐色	3mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・不明 内・不明				
N11	243	土師器・甕 体部中位	①(11.0)	外・褐色 内・褐色	3mm以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外・タテハケ 内・タテハケ				
N11	244	土師器・甕 取手部	①(2.1)	外・浅黄褐色 内・浅黄褐色	2mm以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒中量	良好	外・不明 内・不明				
N11	245	土師器・坏 口縁～底部	①(5.6) ②(20.6) ③(12.2)	外・浅黄褐色 内・浅黄褐色	2mm以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外・ヨコナダ 内・ヨコナダ				

出土遺構	押収番号	遺構 (残存状況)	法量 (m)			色調・胎土・焼成			成形・調整・技法			備考
			①器高 ②口径 ③底径 ④その他	色調 外:外面 内:内面	胎土	焼成	外:外面 内:内面					
R10	246	土師器・甗? 体部下位～底部	①(4.7)	外: 内: 黄褐色 内: 内: 黄褐色	2m以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒少量	良好	外: ナデ/不明 内: ナデ					
H4-P1	247	土師器・环 口縁～底部	①4.2 ②(12.7)	外: 明黄褐色 内: 明黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
H11-P1	248	土師器・环 ほぼ完形	①3.9 ②(13.6) ③(7.2)	外: 明黄褐色 内: 明黄褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母中量	良好	外: ナデ/ヘラ切り 内: ナデ/ナデ					
J5-P1	249	土師器・环 ほぼ完形	①3.8 ②12.7 ③6.9	外: 褐色 内: 褐色	1m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒中量	良好	外: 不明 内: 不明					
L10-P1	250	土師器・环 口縁区～底部	①4.1 ②(14.2) ③(7.8)	外: 褐色 内: 褐色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒中量	良好	外: ヨコナデ/ヘラ切り 内: ヨコナデ/ヨコナデ?					
G9-P1	251	土師器・皿 口縁～底部	①2.9 ②(13.8) ③4.6	外: 明黄褐色 内: 褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石・雲母少量	良好	外: ヨコナデ/ヘラ切り 内: 不明					
J5-P2	252	土師器?环 口縁～底部	①3.2 ②(12.6) ③(7.2)	外: 灰白色 内: 灰白色	2m以下の石英・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外: ヨコナデ/ヘラ切り 内: ヨコナデ/ナデ					
J7-P1	253	土師器・蓋 体部上位～口縁	①(1.6) ②(15.4)	外: 褐色 内: 褐色	1m以下の長石・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
I10-P1	254	土師器・高环 脚部	①(8.1) ③13.0	外: 灰黄褐色 内: 暗灰黄色	2m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
H7-P1	255	土師器・埴輪 口縁～底部	①(7.7) ②(7.8) ④体部最大径(8.9)	外: 明黄褐色 内: 明黄褐色	2m以下の石英・長石・ 雲母中量	良好	外: 指オサエ 内: 指オサエ					
H7-P1	256	土師器・埴輪 完形	①7.3 ②7.1 ④体部最大径9.0	外: 明黄褐色 内: 明黄褐色	2m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外: 指オサエ 内: ナデ					
I13-P1	257	土師器・埴輪 完形	①7.3 ②5.8 ④体部最大径7.9	外: 褐色 内: 褐色	3m以下の石英・長石・ 角閃石少量	良好	外: 指オサエ 内: ナデ・指オサエ					
N14-P1	258	土師器・埴輪 完形	①5.5 ②6.3	外: 明黄褐色 内: 明黄褐色	1m以下の石英・角閃石 中量	良好	外: 指オサエ 内: ヨコナデ・指オサエ					
G7-P1	259	須恵器・壺 口縁～唇部	①(7.0)	外: 灰黄褐色 内: 黄褐色	1m以下の角閃石・雲母・ 白色砂粒少量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ/ハケ目					
G4-P1	260	須恵器・壺 口縁部	①(3.6)	外: 黒色 内: 灰色	2m以下の雲母・黒色砂 粒少量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
M11・M12	261	須恵器・瓶 口縁部	①(5.2)	外: 灰色 内: 灰黄色	2m以下の長石・角閃石・ 黒色砂粒中量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
N11	262	須恵器・甗? 体部中位～底部	①(3.4) ③(6.6) ④体部最大径(10.0)	外: 灰色 内: 灰色	1m以下の石英・黒色砂 粒微量	良好	外: 指オサエ 内: 指オサエ					
N14-P1	263	須恵器・甗? 体部上位～底部	①(6.7) ③(6.2) ④体部最大径(10.2)	外: 褐灰色 内: 褐灰色	2m以下の石英・角閃石・ 黒色砂粒少量	良好	外: ヘラズリ? 内: ヨコナデ/ナデ					
N14	264	須恵器・甗? 体部上位	①(5.8)	外: 灰白色 内: 浅黄色	2m以下の石英・角閃石・ 雲母少量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
F7-P1	265	須恵器・坂? 体部下位～底部	①(3.2) ③7.8	外: 灰黄色 内: 灰黄色	1m以下の角閃石・黒色 砂粒微量	良好	外: ヨコナデ/ヘラズリ 内: ヨコナデ					
I8-P1	266	須恵器・环 口縁部	①(2.8)	外: 褐灰色 内: 灰白色	1m以下の石英・長石中 量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
L12-P1	267	須恵器・瓶 底部	①(1.9) ③(9.2)	外: 黒色 内: 灰色	2m以下の石英・長石・ 黒色砂粒中量	良好	外: ナデ 内: ナデ					
G4-P2	268	須恵器・环? 底部	①(1.4)	外: 灰白色 内: 灰白色	1m以下の角閃石・黒色 砂粒少量	良好	外: 不明/不明 内: ヨコナデ					
R14-P1	269	須恵器・环 口縁～底部	①(3.6)	外: 灰白色 内: 灰白色	3m以下の長石・角閃石・ 褐色砂粒少量	良好	外: 不明/不明 内: 指オサエ					
I6-P1	270	須恵器・蓋 体部上位～口縁	①(3.7) ②(17.4)	外: 灰色 内: 灰オリーブ色	1m以下の長石・角閃石・ 雲母少量	良好	外: ヘラ切り/ナデ 内: ナデ					
H6-P1	271	須恵器・蓋 天井～体部中位	①(2.3)	外: 灰色 内: 灰色	1m以下の石英・雲母微 量	良好	外: ヘラズリ 内: ナデ					
H6-P2	272	須恵器・蓋 天井部～口縁部	①1.9 ②13.6	外: 灰色 内: 灰色	1m以下の砂粒中量	良好	外: ヘラズリ/ヨコナデ 内: ヨコナデ					
一括	273	緑釉陶器・甗? 底部	①(2.0)	外: 淡褐色 内: 明緑灰色		良好	外: ナデ 内: ナデ	全面施釉				
F7	274	緑釉陶器・甗? 底部	①(1.1)	外: 明灰緑色 内: 明灰緑色	1m以下の黒色砂粒中量	良好	外: 不明 内: 不明	全面施釉				
F5-P1	275	灰釉陶器?甗 口縁部	①(2.2)	外: 灰白色 内: 灰白色	1m以下の石英・黒色砂 粒・白色砂粒微量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
E7-P1	276	灰釉陶器・甗? 底部	①(1.5) ③(6.4)	外: 内: 黄褐色 内: 内: 黄褐色	1m以下の石英・黒色砂 粒少量	良好	外: ヨコナデ/ヘラ切り/ナデ 内: 不明					
F8-P1	277	瓦器・甗 口縁～底部	①4.5 ②(16.0) ③(7.4)	外: オリーブ黒色 内: オリーブ黒色	3m以下の石英・長石・ 角閃石中量	良好	外: ヨコナデ/ヘラ切り 内: ヨコナデ/ヨコナデ					
F5-P1	278	瓦器?甗 口縁～底部	①(1.8)	外: 灰色 内: 灰色	2m以下の石英・角閃石・ 雲母中量	良好	外: ヨコナデ/不明 内: ヨコナデ					
I11	279	瓦質土器・鉢 口縁～体部中位	①(6.8) ②(22.4)	外: 灰白色 内: 灰白色	2m以下の石英・長石・ 黒色砂粒中量	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ					
一括	280	染付・壺口? 口縁～底部	①4.8	外: 灰白色 内: 灰白色		良好	外: ナデ 内: ヨコナデ					

第4表 出土土製品他観察表

出土遺構	押通番号	器種 (残存状況)	法量 (cm)				材質	色調	特徴・製作痕・使用痕	備考
			①長さ	②幅	③厚さ	④重量				
4号柱穴	301	土師 ほぼ充形	①4.0	②1.4			1mm以下の石英・角閃石・褐色砂粒中量	にぶい褐色		
1号中世墓	302	銅鏡	①8.9	③0.65		④70.0g	銅を主成分とする金属		草花・鳥の文様	
6号土坑	303	土師 充形	①3.6	②1.4			1mm以下の石英・長石・角閃石微量	にぶい黄褐色		
10号土坑	304	土師 ほぼ充形	①4.7	②1.4			1mm以下の角閃石微量	にぶい黄褐色		
10号土坑	305	土師 約70%	①2.1	②1.1			2mm以下の石英・角閃石少量	褐色		
10号土坑	306	碓石 両端欠損	①9.6	②4.1	③1.9	④135.8g	不明	にぶい黄褐色	4面に使用痕	
14号土坑	307	土師 ほぼ充形	①5.3	②1.6			1mm以下の石英・角閃石・雲母少量	明黄褐色		
14号土坑	308	土師 ほぼ充形	①4.6	②1.3			1mm以下の石英・角閃石・褐色砂粒少量	明黄褐色		
14号土坑	309	土師 1/2	①2.3	②1.1			1mm以下の長石・雲母・褐色砂粒中量	灰黄色		
17号土坑	310	土師 ほぼ充形	①3.9	②1.3			1mm以下の石英・角閃石中量	褐色		
55号土坑	311	土師 ほぼ充形	①5.2	②1.1			1mm以下の石英・角閃石・黒色砂粒少量	明赤褐色		
55号土坑	312	土師 ほぼ充形	①4.2	②1.2			2mm以下の石英・角閃石・黒色砂粒少量	明赤褐色		
55号土坑	313	土師 ほぼ充形	①4.3	②1.3			1mm以下の黒色砂粒・褐色砂粒中量	にぶい黄褐色		
1号不明	315	土師 充形	①5.1	②1.3			1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母中量	明赤褐色		
1号不明	314	土師 ほぼ充形	①3.7	②1.4			1mm以下の石英・角閃石・雲母少量	明黄褐色		
4号不明	316	土師 ほぼ充形	①4.4	②1.4			1mm以下の石英・長石・黒色砂粒中量	にぶい褐色		
F6-P1	317	土師 ほぼ充形	①4.3	②1.5			3mm以下の石英・長石・角閃石中量	明褐色		

第4章 調査のまとめ

前章で報告してきた事実関係をもとに、本章では「各種遺構の内容と時期」、それらの遺構から想定される「赤松地区の変遷」、さらに「周辺地区を含めた定留遺跡の動向」などについて概観して本書のまとめとする。

各種遺構の内容と時期

竪穴住居跡は今回遺構番号を付したものは2軒だけであったが、46号土坑や6号不明遺構などの大型で複数の遺構の切り合いが考えられるものは住居跡の可能性も考慮する必要がある。また、壁面が削平されていたため竪穴住居跡と認識できなかった遺構もあるであろう。確認された1号竪穴住居跡は尾根線に直交するように床面が設定され、焼土等の出土から北東辺のやや北側に作り付けのカマドが設置されていたと考えられる。南西の壁面が残存しなかったため、正確な床面積は算出できないが、50mほどのやや大型の住居跡である。出土した須臾器は8世紀前半代に属するものであり、赤松地区では古い時期の所産と考えられる。

掘立柱建物跡は認識できたものが44棟あるが、柱穴と判別したピットは非常に多いことから他にも建物跡が複数存在するであろう。これらの建物跡を構造から類別すると総柱建物跡が8号・11号・14号・16号・17号・19号・22号・30号・32号・40号の10棟ある。規模は22号が3間×2間であるが、他はすべて方2間の小型の建物跡である。側柱建物跡のうち梁間が1間の小型の建物跡には12号・43号・44号などがある。これらの建物跡の共通点としてその配置が尾根線に対して直交する方向に主軸を取ることがあげられる。今回の調査で確認された最大の掘立柱建物跡は37号で、床面積が約57.12㎡をはかる。検出した柱穴の配置は5間×3間の総柱状であるが、梁間の間隔は中央部が両側の2倍近くあることから、この部分が身舎で、その両側が廂部とも考えられる。この場合この建物跡は南東と北西の両面に廂をもつ非常に重要な中心的な施設と位置付けられる。この37号掘立柱建物跡の周辺には主軸方向が尾根線に並行する一定の建物跡が集中し、他にも床面積が約47.38㎡を有する1号掘立柱建物跡の存在などからも、この地点が赤松地区の居住地域の中心部であったことがうかがわれる。掘立柱建物跡からの出土遺物は全体的に少なく、22号掘立柱建物跡の土師器の蓋が古い様相を示す以外は時期的には8世紀から9世紀代を中心とし、一部はさらに下る時期に属すると考えられる。

柱穴列は今回4条を識別した。このうち1号柱穴列は25号掘立柱建物跡の南西側に2.7m隔てて並行するもので、その位置関係から25号との付属性が想定される。同様に、3号柱穴列も総柱の22号掘立柱建物跡の北東辺と南西辺に並行するようにほぼ直角に屈折するように位置することから22号との関連性が考えられる。ただし、2号柱穴列は周辺の他の掘立柱建物跡とは方位が異なることから、他の施設との関係は不明である。

中世墓は確実な遺構は今回1基のみ調査された。その規模は検出面で幅が1.02mあるのに対して、長さが1.35mしかなく、副葬品として木製容器に入れられた銅鏡が頭部付近に置かれていたことから、被葬者は女性の可能性が高い。銅鏡は全体的に緑青が付着し文様の識別が完全にはできないが、形式は草花双鳥鏡と考えられる。類似した意匠の文様が施されている鏡が帝塚山大学附属博物館に収蔵されている。こちらの鏡は直径が10.3cm(約3寸半)であるが、今回出土した鏡は直

径8.9cm(約3寸)とやや小型である。時期的には平安時代後期の12世紀代と考えられる。

井戸は今回の調査で2基発掘された。ともに赤松地区が立地する台地の尾根線近くで標高の高い地点に立地する。1号井戸は内部から8世紀以降の土器とともに現代の貨幣が出土していることから、近年まで使用されていたものである。2号井戸は近世の陶器が出土しているため、江戸時代には使用されていたことは確実であるが、始期と終期は不明である。

土坑として遺構番号を付した遺構は80基ある。これらの大部分はその用途が不明であるが、一部に用途を類推できる形態の遺構がある。1号・33号・39号土坑などは平面形が隅丸長方形で、長さが遺構検出面で1.46m～1.82mであり、1号中世墓に類似することから、埋葬施設の可能性が考えられる。ただしこれらの遺構の時期は不明である。土坑全体としては掘立柱建物群と同様の時期に属するものが大部分であるが、75号土坑などからは時期的に下る遺物が出土している。

溝状遺構のうち北区の北部で確認された1号は、連続する2号・3号と芯々で2.8m前後の間隔を隔てて並行し、2条が一体となってその南側に存在したであろう施設を圍繞していたものである。これらの溝状遺構は調査区西側では1号が5号に、2号が4号に接続し、5号は北区の南西部で南東方向に屈折して、調査区外の東方までのびている。この方形区画の規模は東西が不明であるが、北辺の2号と南辺の5号との間隔は128mをはかる。1号からは中世の瓦質土器の摺鉢が、5号からは古代の遺物とともに近世の陶器が出土していることから、中世以降近世まで溝としての機能を有していたと推定される。また、北区南東辺の中央付近に位置する7号溝状遺構は大部分が調査区外になっていて、北東-南西方向にのびる一辺しか確認できなかったが、この遺構も全体としては方形にめぐる溝状遺構と考えられる。ただし、北側の屈曲部から多量の蛸壺が集中して出土しており、時期的には8世紀代の遺構である。

土壘が保存されていた場所は「鯉ノ堀」といい、かつては堀がめぐらされていたと言われている。また、この「鯉ノ堀」の一画で土壘の西側には北東-南西方向の長さが約45m、北西-南東方向の幅が約35mの方形の平面形で、周辺に比べて一段高い平坦地がある。この平坦地は「地頭屋敷」と呼ばれ、「昔、守護地頭のあった時代に、地頭が住んでいた」と言い伝えられている。さらに、土壘の延長線上の南西側には井戸が残っていたことから、この土壘は屋敷を区画していた施設の名残と考えられる。今回の調査では土壘の遺構内から良好な遺物の出土がないため時期の確定はできないが、北区では中世の遺構や遺物がいくつか確認されており、この時期以降のものであろう。

赤松地区の変遷

今回の調査で確認された遺構は、大きく2つの時期に分けることができる。8世紀から9世紀代では、当初堅穴住居跡と方2間の総柱建物跡などが設置され、集落としての営みが開始される。この時期は遺物の中で蛸壺と土鍾の出土量が顕著であることから、漁労に高い比重を置いた生産活動が推測される。また、移動用のカマドも多く出土しており、農耕に伴う定住生活とはやや異なる生活形態がうかがわれる。その後8世紀後半以降、居住施設は掘立柱建物跡へと変化し、最盛期には両面廂の可能性のある建物跡が出現する。この時期、遺物の中には遠方から搬入された緑釉陶器や灰釉陶器などの国産の高級陶器が見られるようになる。これらの陶器は周防や畿内で生産したものを中心に今回の調査で十数点が出土している。特に、11号土坑から出土した取手が付く緑釉陶器の瓶は当地域では希少な例であり、同時に出土した緑釉陶器の皿は9世紀後半頃の所産と考えられ

る。この時期には経済的な基盤が向上していたと考えられる。可能性の一つとして、生産活動が漁労だけではなく、海上交通を背景にした交易にも着手していたかもしれない。

次に、12世紀以降の中世には居館が造営されていたと考えられる。北区の大型の二条の区画溝や南区の土塁及び1号中世墓・井戸などがこの時期の遺構であり、掘立柱建物跡の一部もこの時期に含まれる可能性がある。今回の調査では良好な貿易陶磁は出土していないが、区画溝の規模からみると有力な集団が居住していたと推定される。

周辺地区を含めた定留遺跡の動向

定留遺跡では圃場整備事業に伴い、平成9年度から11年度にかけて赤松地区以外にも向地区・田畑地区・八反ガソウ地区などで広範囲の発掘調査が実施されてきた。向地区では6世紀後半頃の竪穴住居跡が発掘され、田畑地区でも7世紀から8世紀代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などからなる集落の所在が確認されている。さらに、八反ガソウ地区では竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡18棟などが調査され、8世紀代の蛸壺を焼成した土坑も多数確認され、遺物には土錘も多いことから、漁労に関わる海浜集落の様相が判明した。中世には掘立柱建物跡を囲むように溝が配置され、青磁や瓦器が出土していることから、居館が存在した可能性が考えられている。このように、定留遺跡では古墳時代後期から住居が点在し、7世紀から8世紀代には東から北側にかけていた海浜を舞台として蛸壺による漁労が盛んになるとともに集落が拡大していく。そして9世紀には海からの産物とともに、瀬戸内海を交易ルートとして活用しながら沿岸地域や近畿地方などと交流し、古代における最盛期を迎えたものと考えられる。定留遺跡周辺で古代における中心地のひとつが、今回調査した赤松地区であろう。なお、この時期当遺跡の南東約12kmに近接する宇佐八幡は769年の神託事件を契機に次第にその国家的地位を高めていくが、当遺跡周辺の集団もこの歴史の動向に無関係ではなかったであろう。

【参考文献】

- ・中津市教育委員会 『福島遺跡東入垣地区(Ⅲ) 定留遺跡向地区』 中津市文化財調査報告第22集 1998.3.31
- ・中津市教育委員会 『福島遺跡(Ⅳ)東入垣地区 定留遺跡八反ガソウ地区』 中津市文化財調査報告第23集 1999.3.31
- ・中津市教育委員会 『定留遺跡田畑地区 台遺跡』 中津市文化財調査報告第24集 2000.3.31
- ・中津市教育委員会 『定留遺跡田畑地区』 中津市文化財調査報告第35集 2005.2.28
- ・中津市教育委員会 『定留遺跡八反ガソウ地区発掘調査報告書』 中津市文化財調査報告第38集 2006.3.23

圖 版



(1) 定留遺跡赤松地区調査区遠景（南東から）



(2) 定留遺跡赤松地区調査区遠景（北西から）

図版 2



(1) 北区全景 (西から)



(2) 北区南半 (西から)



(3) 北区北半 (西から)



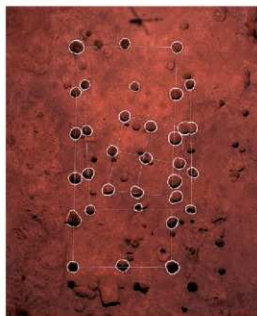
(1) 1号・2号竪穴住居跡（北東から）



(2) 1号竪穴住居跡（北西から）

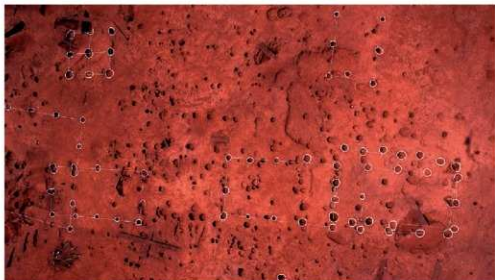


(3) 1号～7号掘立柱建物跡付近（南東から）

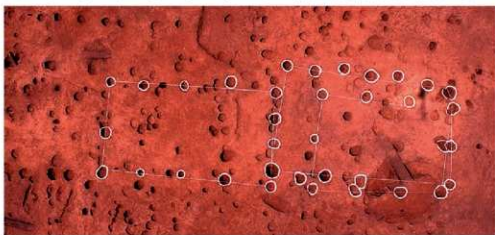


(4) 1号～3号掘立柱建物跡（南西から）

図版 4



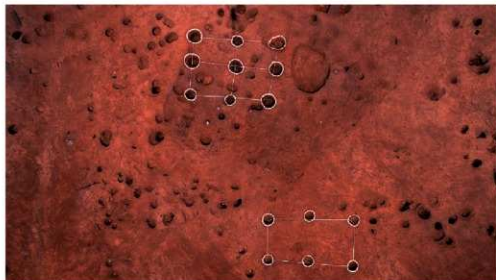
(1) 6号・7号・9号・10号・14号・20号・31号・37号掘立柱建物跡付近(南東から)



(2) 6号・7号・9号掘立柱建物跡(南東から)



(3) 11号～17号・20号・30号・39号・40号掘立柱建物跡付近(南西から)



(1) 11号・12号掘立柱建物跡、55号・71号土坑（南西から）



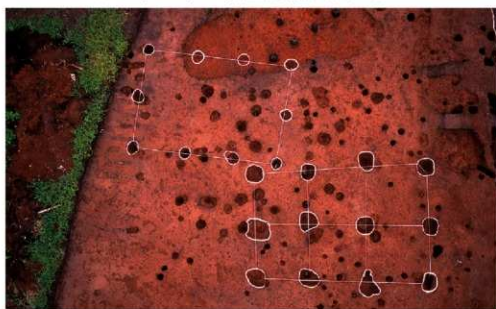
(2) 13号・17号・18号掘立柱建物跡（南東から）



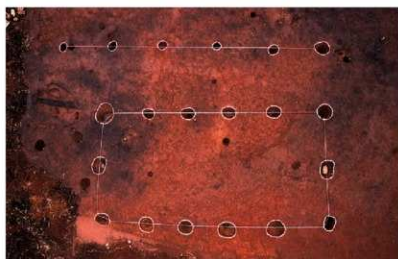
(3) 14号～20号掘立柱建物跡付近（南東から）



(1) 19号・21号・43号掘立柱建物跡（北東から）



(2) 22号・23号・44号掘立柱建物跡、36号土坑（南西から）



(3) 25号掘立柱建物跡・1号柱穴列（北東から）



(1) 26号・27号掘立柱建物跡、49号・58号・61号土坑（南西から）



(2) 28号・29号掘立柱建物跡、45号土坑（北東から）



(3) 7号溝状遺構（北西から）



(1) 中世墓（南から）



(2) 中世墓土器出土状況 1



(3) 中世墓土器出土状況 2



(4) 中世墓銅鏡出土状況



(5) 中世墓銅鏡容器出土状況



(1) 1号井戸 (北から)



(2) 2号井戸 (北東から)



(3) 7号溝状遺構 (北東から)



(4) 7号溝状遺構蛸壺出土状況 (北東から)



(5) H7グリッド-P1 (西から)



(1) 南区全景（南から）



(2) 南区南部（北西から）



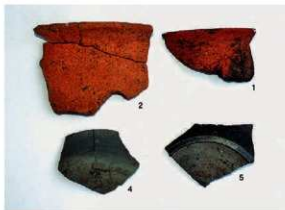
(3) 南区中央部（南西から）



(4) 土塁土層断面 1（北西から）



(5) 土塁土層断面 2（北から）



(1) 竪穴住居跡出土遺物 1



(2) 竪穴住居跡出土遺物 2



(3) 掘立柱建物跡出土遺物 1



(4) 掘立柱建物跡出土遺物 2



(5) 掘立柱建物跡出土遺物 3



(6) 中世墓出土遺物 1



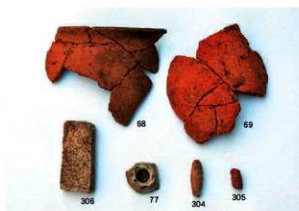
(7) 中世墓出土遺物 2



(8) 中世墓出土遺物 3



(1) 土坑出土遺物 1



(2) 土坑出土遺物 2



(3) 土坑出土遺物 3



(4) 土坑出土遺物 4



(5) 土坑出土遺物 5



(6) 土坑出土遺物 6



(7) 土坑出土遺物 7



(8) 土坑出土遺物 8



(1) 土坑出土遺物 9



(2) 土坑出土遺物 10



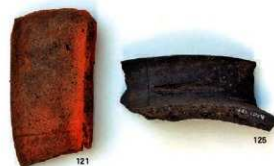
(3) 土坑出土遺物 11



(4) 土坑出土遺物 12



(5) 土坑出土遺物 13



(6) 土坑出土遺物 14



(7) 土坑出土遺物 15



(8) 土坑出土遺物 16



(1) 土坑出土遺物17



(2) 土坑出土遺物18



(3) 土坑出土遺物19



(4) 土坑出土遺物20



(5) 土坑出土遺物21



(6) 土坑出土遺物22



(7) 土坑出土遺物23



(8) 溝状遺構出土遺物1



(1) 溝状遺構出土遺物 2



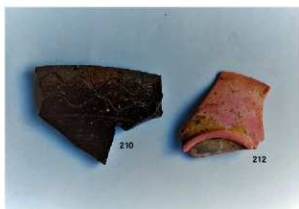
(2) 溝状遺構出土遺物 3



(3) 溝状遺構出土遺物 4



(4) 不明遺構出土遺物 1



(5) 不明遺構出土遺物 2



(6) 不明遺構出土遺物 3



(7) 不明遺構出土遺物 4



(8) ビット等出土遺物 1



(1) ビット等出土遺物 2



(2) ビット等出土遺物 3



(3) ビット等出土遺物 4



(4) ビット等出土遺物 5



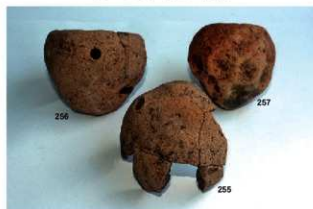
(5) ビット等出土遺物 6



(6) ビット等出土遺物 7



(7) ビット等出土遺物 8



(8) ビット等出土遺物 9

報 告 書 抄 録

ふりがな	ただのみ いせきあかまつちくほつちようさほうこくしょ							
書名	定留遺跡赤松地区発掘調査報告書							
副書名	大分県中津市大字定留における圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第89集							
編著者名	末永 弥義							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111							
発行年月日	2018年3月15日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
定留遺跡	大分県中津市大字 定留995番地	44203	101034	33°	131°	19990401	8,800	圃場整備
				35°	15°	～		
				11°	5°	19990831		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
定留遺跡	集落	古代～ 中世	竪穴住居跡2軒・堀立 柱建物跡44棟・柱穴 列4条・土坑80基・中 世墓1基・井戸2基	土師器・須恵器・瓦 器・緑釉陶器・灰釉 陶器 銅鏡・土錘	なし			
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8世紀から9世紀代の竪穴住居跡や堀立柱建物跡などからなる集落が確認され、緑釉陶器や灰釉陶器などの国産高級陶器が多数出土した。 ・ 中世の居館の周囲にめぐらされていたと考えられる溝状遺構や土塁を確認した。また、銅鏡や土器類を副葬した中世墓が発見された。 							

定留遺跡 赤松地区 発掘調査報告書

大分県中津市大字定留における圃場整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第89集

2018年3月15日

発行 中津市教育委員会
印刷 藤川原田印刷社

